

此名刺の最後に記入せる穴倉なるハンス(Hans in Kelder)は國王が當時王女(ヘミ)と王子(George)とが婚約ありたるに依り御伽噺を引用せられたるならんと察せらる今は昔老ひたる夫婦の一人娘にエルゼとて生れながら

| | |
|------------|-----------|
| Charles, | King. |
| James, | Duke. |
| Katherine, | Queen. |
| Mary, | Dutchess. |
| Ann, | Princess. |
| George, | Prince. |
| Hans in | Kelder. |

London: Printed by
G. Croom, on the
ICE, on the River
Thames, January, 31,
1684.

の家を青年を招ぎけるが主客各座に着きて酒くみ交はしつゝ四方八方の噺をなし居る内に銚子も空になりければエルゼ嬢は徳利を携へて穴倉に行き呑口の下に是を据え置き酒の流れ出る間に此處彼處を見わたしけるが酒桶の上方に當り土方工夫の置き忘れたるらしき鶴嘴が長押にかゝり

村にハンスと呼ぶ青年あり妻を探し居る際なりければ媒介する人ありて例の如く幾度か訪ひつ問はれつ竟には見合をなさばやと老夫婦

第九十九圖



食事之準備

居るを見附けて思ふ様我今彼青年と結婚しなば一兩年の内には小供も生まるゝなるべく其子次第に成長したらん後には來客などある折に酒を取りに此穴倉に來りて

へん思へば不幸なる我身にて有りけるよとせきくる涙は酒もろとも床板に流れて時刻の移るも知らずありければ老嫗は娘のあまり遅きに如何せ

英國之遺跡

し事乎と見に来りたるに酒桶の前に娘が泣き居るを見て其故を問ひたるに母上あの鶴嘴を御覽せよ我等今婚約成らば一兩年の内には小供も生まるゝなるべく其子次第に成長して此處に來りたる折に萬一あれが頭上に落ち來らば逆も助かるまじ可愛子に死なれて何を樂みに此世を暮さん是を思へば悲くてと泣き伏しければ老媪は深く其言に感じ他日孫が横死せる際の不幸を豫想して共に涙にむせび居たり去る程に待ちわびたる老翁は何事の起りたるならんと思ひて自ら穴倉に入りたるに母子共に泣き居るを見て何事乎と問ひ他日生るべき孫の横死せる後は如何に不幸の身とならんと老媪の談るを聞き如何にも末の末までも考ひ居る我が娘の賢さを目前に見ては喜ばしくもあり未來の孫の横死を想ふて悲しくもあり竟に迎ひに來る身を忘れて親子三人穴倉に泣き居たり斯くて空しく二時間あまりを過ごしければハンスも竟にたまりかね如何なる事や起りたるらんと恐るゝ穴倉に尋ね入りたるに親子三人泣き居たりければ如何なる

不幸の起りたる乎と問ひけるにエルゼ答ひけらく聞かれよ我が君我等若し結婚せんには一兩年の内には小供も生まるゝならん五年七年は夢の間に過ぎ去るべく我等の小供が此處に酒を取りに來る折にかの鶴嘴が落ち來らんには小供の命は助かるべきにあらず唯一人の可愛子に先立たれて君は何を樂に此世に存命せんと思はるゝぞ思へば不幸なる我等が運命にはあらずやとハンス是を聞きて大に感心し斯く迄深き考のある賢婦人ならば我が妻として少しも不足なしと直に縁談調ひてけり斯くて新家庭は田舎に造られ樂しく月日を送りけるが或日のことハンスは貸仕事に雇はれたればエルゼは晝食を携へて畑に麥刈に出掛けるが晝食を先に喰ひて仕事に着手せん乎或は麥を刈りて後に晝食にせん乎と深く其利害を研究し居る内に早く正午も過ぎ去りければ兎に角晝食をすまして思ふ様今直に麥を刈り始めなば此暑氣にては睡眠を催すなるべし萬一居睡して鎌もて指など切りたらんには終生悔ゆるも及べきにあらず先づ晝寝して元氣

を養ひたる後に刈り初めなば仕事もはかゆくなるべしと其儘木蔭に横りて休み居る内に日は早く暮れにけり



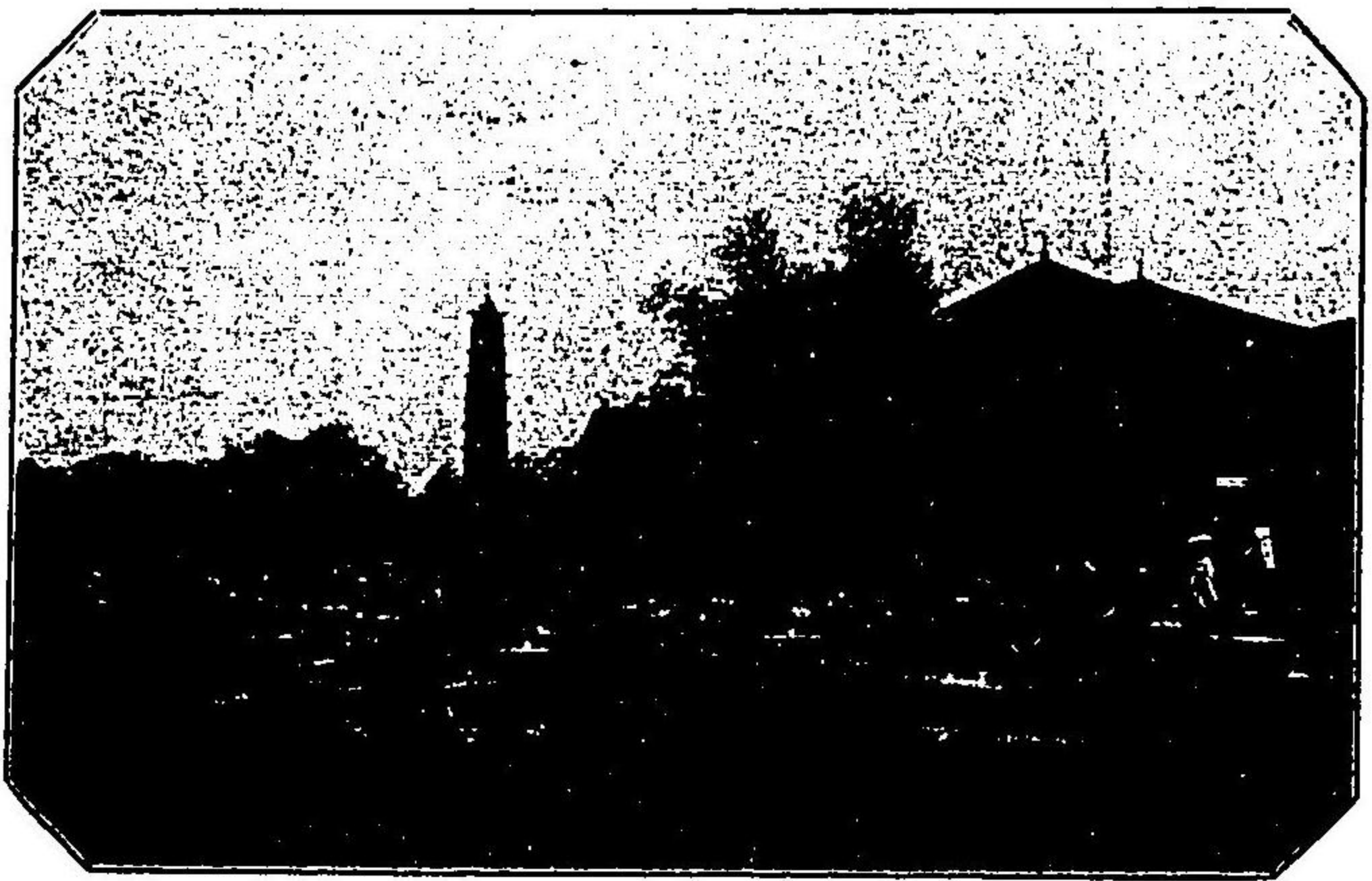
晝を先にする

ありし小さき鈴を集め來りて妻の衣服に結び附け私に家に歸りけり斯くて日も暮れ果て後にエルゼは目をさまし起き上りたるに四方は眞暗にて

一步毎に鈴の音高く響きければ夢に夢見し心地して果ては我ながら我が身を疑ひ沈思黙考すればますます疑念深くなり竟には此處に居る肉體は果して我が身なりや他人なりやさへ知るを得ざりければ兎に角良人に問ひ質さんと決心して家に歸りけるが戸は既に閉ざれて入るを得ざりし故にハンスを呼びて茲に居る我は眞のエルゼなりや否哉を問ひたるにさすがの良人もあきれかへり眞のエルゼは日没前に歸りて家の内にありと答へければ賢婦人エルゼ然らば案の如く此身は眞の我にて非りし乎と獨言云ひつゝ門を出て行きて行方知れずなりてけり
九月も既に残り少くなりければ急ぎ英國内を巡らばやと思ひ旅店を辭して停車場に到りイデンバラ (Idenburgh) 迄の乗車券を買ひ取りたるに二十九日附の者なり今朝旅店宿料受取には三十日とありたれば古き切符にはあらずやと能く改めたるに別に怪むべき點も見當らず即ち能く日を數ひ見たるに實は二十九日なりけり斯くて旅店にて一日間の宿泊料を誤魔

化さんが爲に日附を一日先にせしものと察せらる歐洲大陸に滞在する事既に二年餘にもなりたれど常に充分の注意を拂ひ居りたるが故に一回の失敗だになく暮らしたりしに今は世界に於て最も正直にして公徳高き國民なりと自ら稱し他も亦然りと許せる英國内に來りたるなれば少しも疑ふ處なく支拂ひたるに竟に一日の滞在費三圓餘を欺取せられたり然らば即ち人を見なば泥棒と思へとは英國内に在りても亦服膺すべき金言なり況んや他の歐洲諸國內に於てをや我嘗て以太利國ローマ市(Rome)に遊べるの時某料理店に入りて晝食をなし三リルレ餘の勘定に二十リルレの金貨を以て支拂ひたるに釣銭は二リルレ不足なるを認めたれば不足なりと言はずして單に猶一度數ひ見よと命じたるに給仕は聲高く數ひ初めたり四五、六、七、八、九、十、十一、十二、十四、十五、十七、十八、十九、二十、二十餘に間違なしと平然たり五六才の小供が數をかぞふるが如く途中にて十三と十六とを飛ばして數ひ是に依りて二リルレを欺取せんと企つる其横着さ加減は到底常人の

圖 一 百 第



英國之濃霧

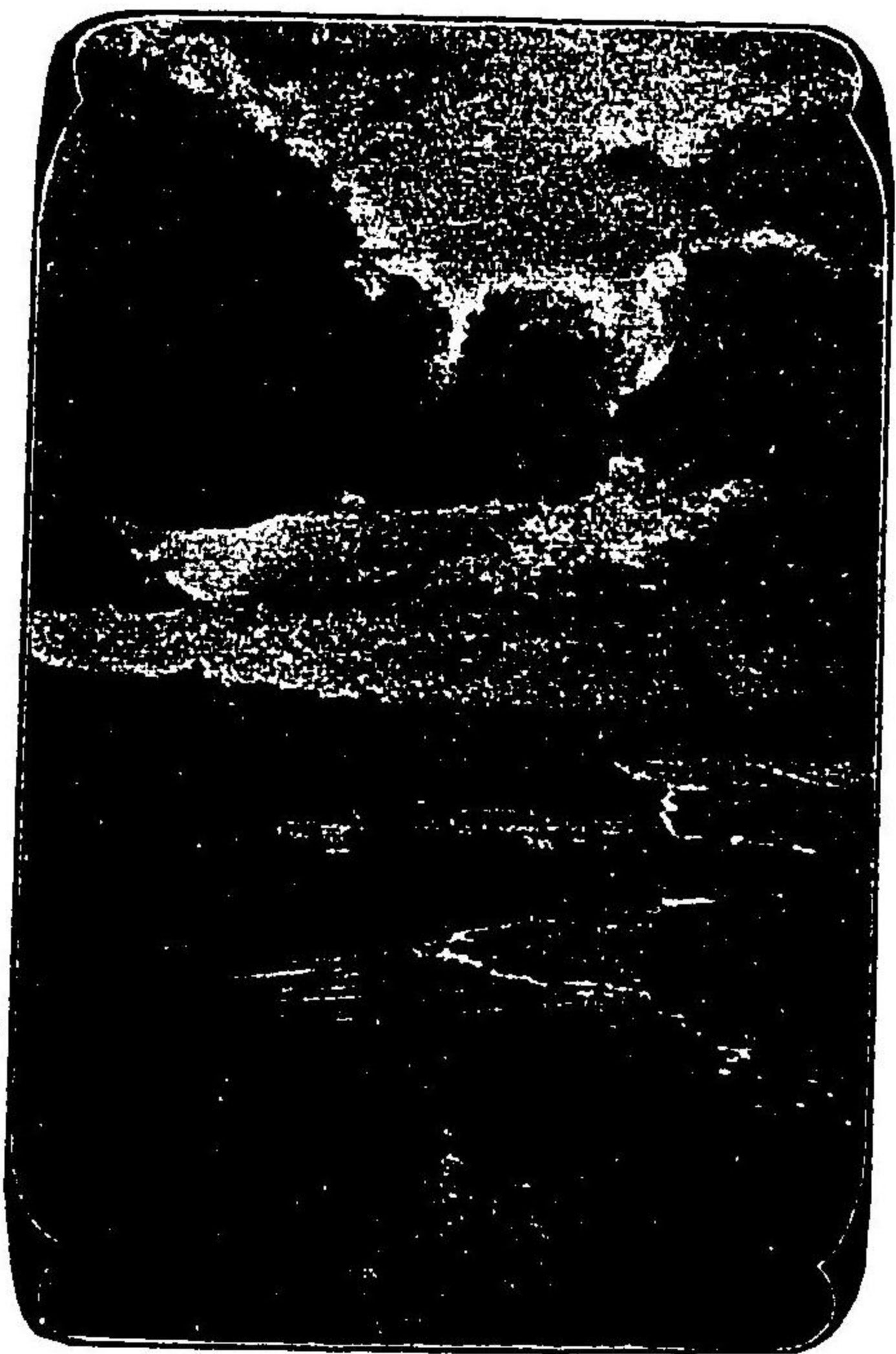
店 理 料 の 季 夏

想像だも成し得ざる所たり

汽笛一聲キングス・クロス(Kings Cross)を發車して市外に出でたれど黃霧六合に充ちて何等の景色だに見えずウーズ(Ouse)河を渡り行けばニウトン(Sir Isaac Newton)の故郷もありと聞けど訪ふべき暇もなく霧深ければ何れを夫れと眺むることだに叶はざりしがヨーク(York)の里に霧はれて行く手の廣原は高く低く波を打てるに似て早木枯の吹くならん緑の草もなかば枯れダーリントン(Darlington)より分岐して東の方ストックトン(Stockton)に到

るの鐵道は西曆千八百二十五年の設立にて汽車にて客人並に荷物を運送せる嚆矢たりチーン(Tyne)河を渡りニウカッスル(New Castle)を過ぎ行けば遙

第百二圖



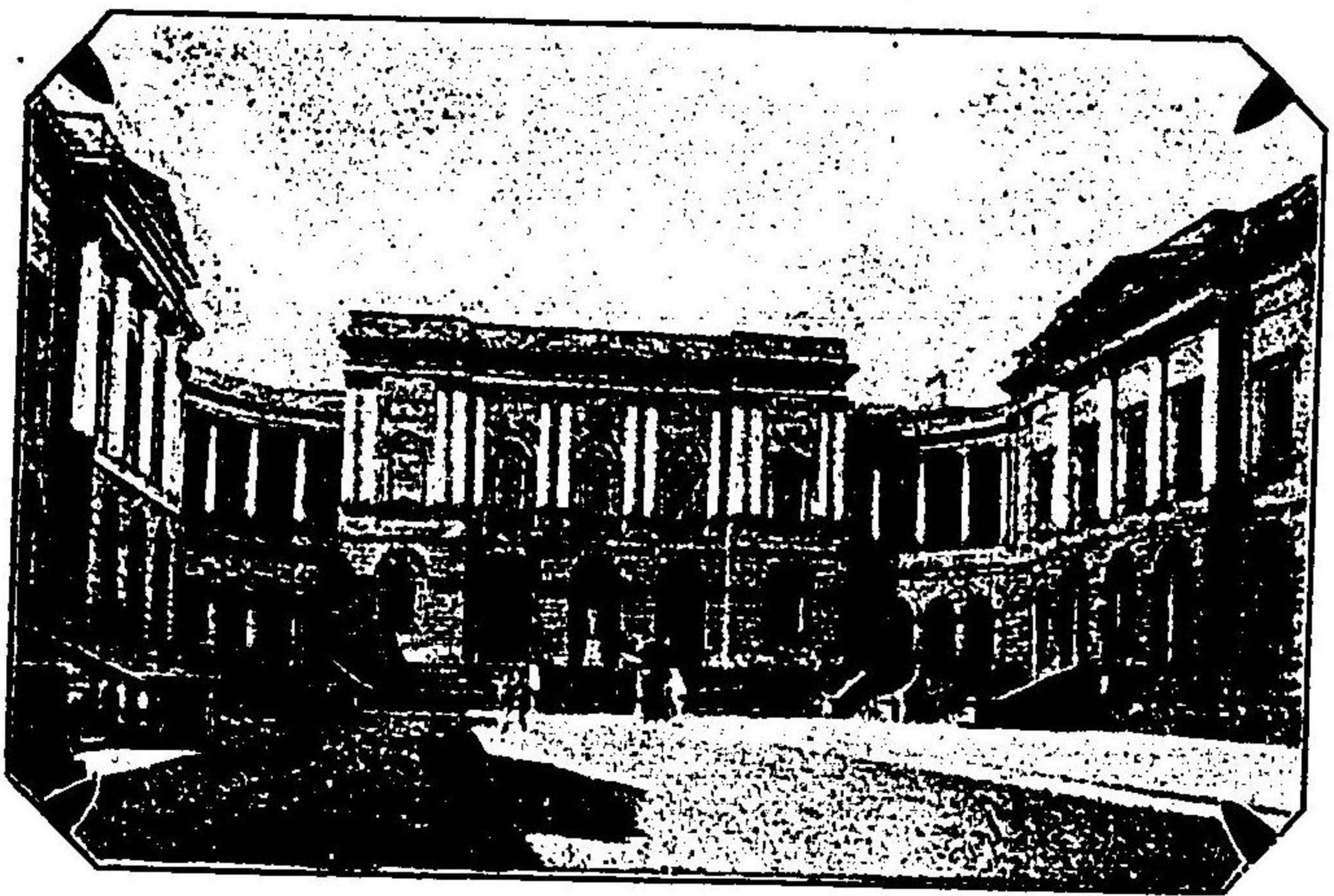
遙に燈臺を見す

海(North Sea)の景色もかすかにあらはれ波間にうかぶ島も見え雲に聳ゆる燈臺も往き來の船も稀ならず左の窓より眺むればスコットランド(Scotland)

の堺なる岡陵(Chiot Hills)は波立てる太洋の如く傾斜甚だ緩にして嵯峨たる山谷の見るべきものなきも薄雲かすかに山頂を掩ひ濃霧は深く谷底をかくし何處となく奥ゆかしき有様は此山水ありて此國民を生せるなりと想はしむるものなきにあらずベルキック(Berwick)を過ぎぬれば遙に海士の燃く火も見え山にも海にも霧たちてイデンバラにぞ着きにける
草まぐら旅路の空は霧をふかみ
同じ空なる月だにもなし

博物館は大學と通じ居りて單に古物のみならず現に大學にて教授並に研究に使用する最新式の機械器具の類まで使用せざるときは此處に陳列して公衆に觀覽せしめ居るらし去れば博物館の費用を以て新式の機械を購入し是に依て學術の研究をなさしめ從て各自専門の學者が斯道に關する物品を整理するが故に博物館は日に月に改良せられて一舉兩得ならんと思はる

第三百三圖



イデンプラ大

霧をふかみ晝さへ暗きイデンプラ市を立ち出でテー(Thames)河に沿ふて上り行きキルリイクラシキイ(Killiecrankie)の深林も過ぎぬれば名にし負ふスコットランドの高原は波状を成して岡陵連綿たるも元より山と言ふべき程の者もなし英國第一の高山(Ben Nevis)も海拔僅に四千四百尺なるを思はれ其他の諸山は推して知らるべし只々廣漠たる原野が枯草に掩はれ低き處には雨水停留し谷川には濁水すさまじく流れ稀に牛羊が群をなせるを見るのみガルリイ湖(Loch Garry)の景

色も隠れタルキンニイ(Dalwhinnie)の野も後になれば左手の湖水(Loch Erioch)は遙にアルダー岳(Ben Alder)の倒影を寫し避暑地に名を得たるキングスシイ(Kingsisic)も遠からず峰の薄雲消え失せてスバイの(St. Mary's)河の流れは布を晒せるが如く夕陽遙に古戰場(Culloden Moor)を照らしモーレイ灣(Moray Firth)に影落ちてインバアチス(Inverness)に着きにけり

當地はスコットランド北部の都會にして人口二萬にあまり北緯約五十七度半に位する閑静の田舎町たり壯麗人目を驚かすに足るべき建築物なきもネス(Loch Ness)河に沿ふて杖を曳き湖畔に立ちて英國の濃霧を回想すれば自ら仙境に入りたるの感なき能はず蓋し英國の天空が有形的に濃霧を以て充たされ居るのみならず恐らくは英國の社會は無形的にも亦全く濃霧に閉され居るに非る乎萬事何等の成規なく凡て習慣に依りて事を行ふなれば初めて英國内に來れる旅行者には不便此上なく恰も五里霧中に迷ふの感なき能はず習慣を以て犯すべからざる法律となすは土着の者には最

第百四圖



ネ ス 湖

良の方便たるべし去りながら新來の者には御無理御尤と言ふの外なからん他日萬一有事あるの秋に當り一部に故障起らば全部救ふべからざるに到るの恐あるならんと想はる

我嘗て食事の折に飯に砂糖を入れたる御馳走ありける時は是に少しく鹽を交へて味を附けんとせしに隣席に在りし英人言ひけらく夫は習慣にあらずと其語調は恰も犯罪者を咎むるが如し彼英人は飯に鹽を加へざるは英國に於ける習慣な

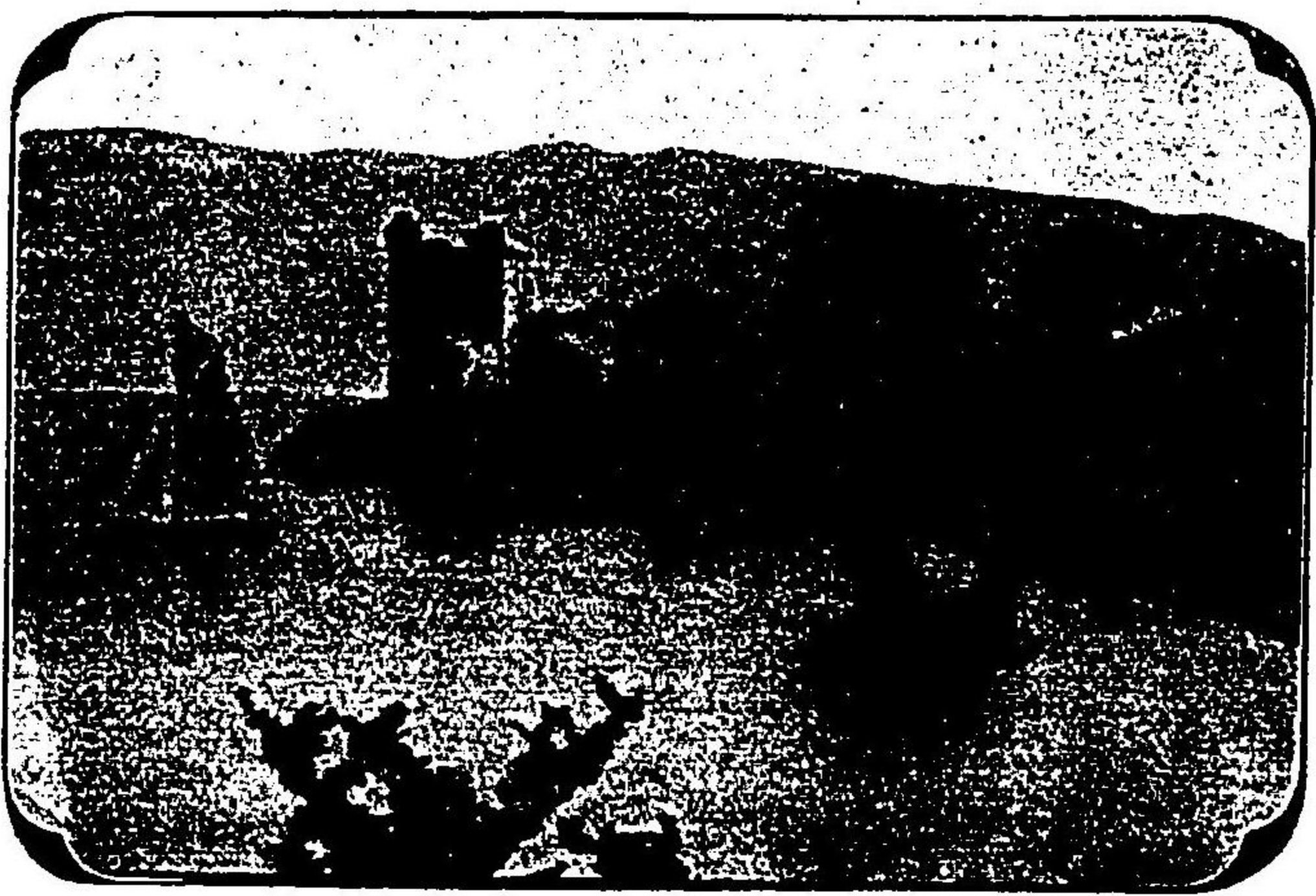
るを知れど他國には鹽分なくして飯を喰はざる常習あるに考及ばざるなり習慣を重んずるが故に其基礎堅固なる英國は恐くは今後容易に舊習慣を脱し得ざるが故に却て禍を蒙るの日なからん哉試に近頃問題と成り居る日光利用(Daylight Saving)に關する某英人の立案を見よ吾人が毎朝長く床の中にありて日光を浪費し夜間は多大の費用を投じて燈火の下に夜をふかすは不經濟なるのみならず衛生上にも大害ある事なれば國民一般に朝起の時間を早くせんと主義を實行する手段として目下英國に採用され居る標準時を一時間進ませよとの案なり蓋し其理由とする處は一時間早く起きなば朝食の時刻をも一時間早く繰上げざるべからず去りながら年來守り來れる食事の時刻を變更するは習慣を破るの嫌あるが故に寧其標準時を變更して一時間進めよとの論なり英國人の常識も茲に到りて亦其有無を疑はざるを得ず流石に獨逸人は誌上に於て此案に聲援を與ひつゝあるを見る蓋し英國の標準時を一時間進むるとは是を學術上の語を以て

言へば英國グリニッチの時刻が是迄世界の標準時たりし者を今後は獨逸國伯林市の時刻を世界の標準時に採用すると云ふ事なり此一事は以て能く英獨兩國人の氣風を説明するに足るなるべく斯くの如くにして世界の中心は次第に英國より獨逸國に移り行くに非る乎

當インバーネス市には世界に誇るべき産物なしと言へど遠く東洋の島帝國內に流行する夏外套は當市より始まりたる者なりと聞かば自ら舊知己の感なき能はず

當地より西南に向ひてスコットランドを二分せる谷あり地質學者の言に依れば此谷の西北部は有史以前に於て陥没し従て西岸は概ね海底に沈み嘗て此處にありし湖水は今變じて深き入江 (Firth) を成せりと乎此線に沿ふてネス (Loch Ness) 及びロッキー (Loch Lomond) の二大湖蜿蜒として長蛇の如く横はり運河 (Caledonian Canal) 是をつなぎて北海波上の船舶スコットランドを横断し大西洋に航するを得せしむ

第五百圖



城古のトルアクルウと湖スネ

英國之湖霧

汽船に乗りてインバーネスを發し湖上の人となれば兩岸の岡陵或は岩層縦に屹立するなきに非るも概ね松樹生え茂り蒼天低く山の背に垂れて水面甚だ高きが如き感あり蓋し狭谷 (Gorge) の兩岸幾千尺の高きに達せるノルエー國の山水に慣れたる肉眼は兩岸の低きを悟らずして却て湖面高きものと思ひ誤るならん乎

右岸の古城址 (Urquhart Castle) は昔をしのぶよすがとなり左岸なる懸河 (Fall of Foyers) は英國第一の佳景

と聞けど思ふに任せぬ船路なれば訪ふべき暇も波を馳せ夕陽はるかの山頂に消えてフォルトオーガスタス (Fort Augustus) に一泊し湖岸に沿ふて杖を曳けばベン・ネビス (Ben Nevis) の山嶺雲間に見ゆ海拔僅かに四千四百尺なる者を英國に在ればこそ其名も世上に知らるゝなれば思ひきや一目銀世界の雪景色

旅なれや早初雪もふるさとは

紅葉のたよりきくをこそ待て

兩となり風を加へ次第に嵐と變りければ止むなく登山を念ひ断ち野越え山越え行く先に入江 (Firth of Clyde) のかなたを見渡せばゼームスワット (James Watt) の故郷も見え英國第二の大都會グラスゴウ (Glasgow) 市に着きにけり大學に附屬せる博物館は元より完備せること言ふまでもなく其中に粗末なる古風の蒸汽機關あるを見る是こそワットが其天才を發揮せる材

料にして世界の文明史に特筆さるべき記念物なれ

西曆千七百六十四年當大學の機械工たるワットは此蒸汽機關の修繕を命

せられたるに多大の燃料を要して極めて僅少の仕事を成すを遺憾とし其構造を精査して根本的の改良を企て竟に第十九世紀文明の要素たる蒸汽機關を完成するに到りたるなり當時氏が特許局に呈出せる

圖 六 百 第

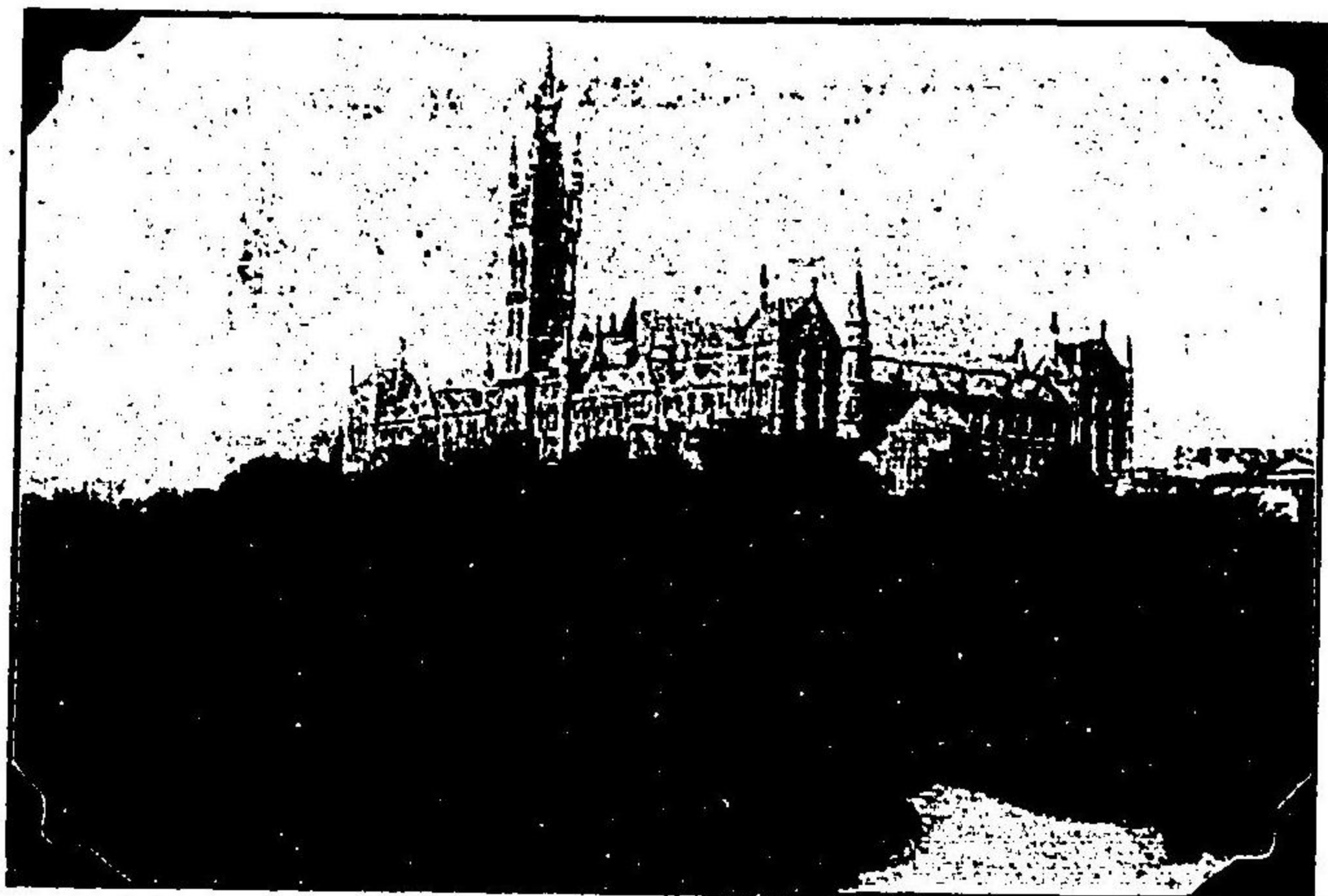


一 日 銀 世 界

説明書の内に熱汽機關の原理として今も猶改むべからざる二三の條項あり即ち圓筒 (Cylinder) は汽關の作業中常に蒸汽と同温度ならしむべく決し

英國之遺稿

第七百圖



グランド・セント・ニコラス

て是を直接に冷却すべからざるのみならず寧其外部を熱の不導體にて包み更に蒸気を通して熱し置くべし而して圓筒内の蒸気を凝結せしむるには別に特殊の装置を作り此の凝結器(Condenser)を冷水若くは其他の作用に依り少くとも外氣の温度と同一に冷却し置くべしと蓋し水車の働く力は水の落下する高さに比例する如く蒸汽機關の爲す仕事は圓筒に入りたる蒸汽の温度と凝結器の温度との差に比例するものなればなり

是より北海峽(North Channel)を渡り

てアイルランド(Ireland)内を巡歴する豫定なりしも既に冬の季節に向ひ天候常に悪くして山野を跋涉するに適せずなりければ直にロンドンに歸りぬ英國の地文學者として世界に名高きゲーキー氏(Geikie)嘗てスコットランドの西部に住ひたる知人に其地の氣候如何と問ひたるに彼答へけらく豈氣候あらん哉九箇月間は冬にして残り三箇月は嵐のみと此一言は誠に能く英國内の氣候を言ひ盡せりと言ふべし

ロンドンに着きたる翌朝降雨しきりなるに真に結構なる天氣なり(Very fine weather)と宿主の言ひければ日本にて朝寝せるものにも御早ふと云ふ如き形式的のあいさつならんと思ひ居りたるにその後は毎日黄霧六合に充ちて晝も猶暗く日中にも燈火に親しむを経験して斯る雨天の日なりとも雲切れて太陽時々見ゆる日は冬期の英國内に在りては誠に結構なる日と喜ばざるべからざるの理由を悟れり去れば同一の言語に依りて形容せられたる事實は必しも同一にあらずして其當時の狀況に依りて雲坭の

第百八圖

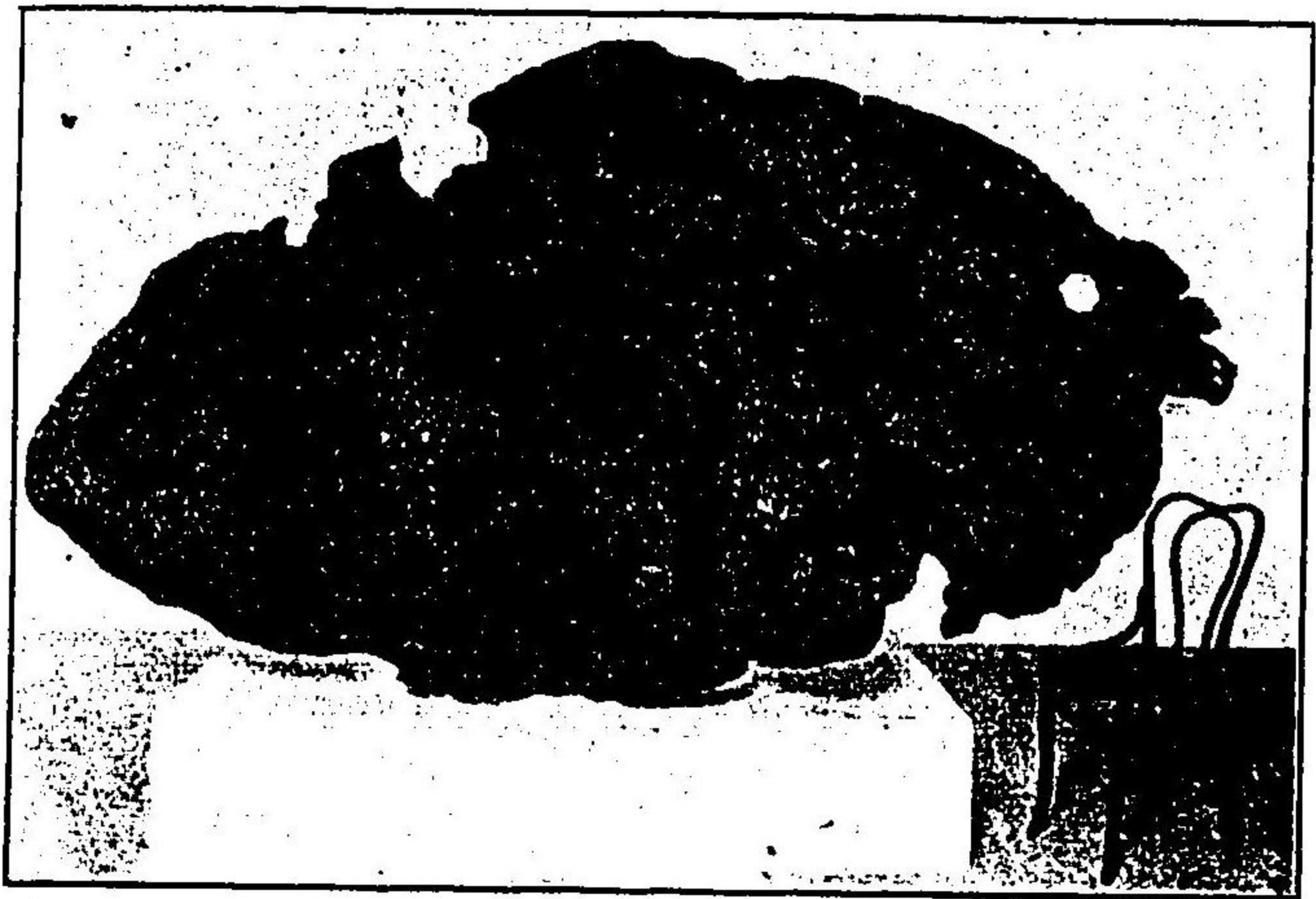


ケムアリの公の圖

差あるを思はざるべからず同一時代並に同一地方にありては形容詞に依りて其事物を推察せば當らずとも遠からざるは勿論ならんも東西處を異にし幾百年の歳月を隔てたる今昔の記録を比較する場合には細心なる注意を要するなり某日本人と其人相書を對照して其本人なるや否やを判定せんとせる歐人が人相書に色白き方とあるを見て此者は本人にあらずと主張したる實例あり蓋し日本人種間において色白しと言はるゝ人物も白人種目の目には實際白く見ゆる者に

非るを悟らざるに依るなり今の世の學者が記録に依りて古代を論ずるに當り此歐人の如き誤を成すもの少からず殊に古を尙ぶの風盛大なる東洋にありては教育家も宗教家も乃至は一般人士も猥に古人を景仰し今人を擯斥し古代を謳歌し現代を呪咀する者多きは概ね舊記に用ひられたる形容詞を理解する上に於て注意足らざるに起因せずんばあらず嘗て全世界を統一したりてふローマ(Rome)帝國の首府も今日其遺跡を實査すれば其廣さは現代の一富豪の邸宅にだも及ばず現今の馬匹は弱しと言ふとも廣大無邊なる滿洲の山野を縱横に馳せ巡ぐるには不充分なりしと言ふには非る乎是に反して飛鳥の如く馳せたりてふ昔の駿馬は廣さ僅かに數町に過ぎざる戰場内にありて徒步者と共に活動せる者なるを思はざるべからず然らば即ち盛代の模範たる堯舜の世も萬一活動寫真にして現今まで保存し置きたらんにはさながら蕃社の有様を見る如くなりしならん乎と疑はる

第百九圖



天降鐵長拾尺

英國の博物館はいづれも材料豊富なるが殊に英京なる理學博物館 (Science Museum) の如きは唯々驚くの外なし最も稀なるべき隕石 (Meteorite) も猶六百個の多數に上れるを見れば其他は推して知らるべし最大なる隕石はメルボルン (Melbourne, Australia) にて發見せられたる者に九百三十八貫匁の大塊なり日本に降りたる者も亦少からず茲にあり

支那にありては太古より屢々隕石ありしなるべし今を去る事二千

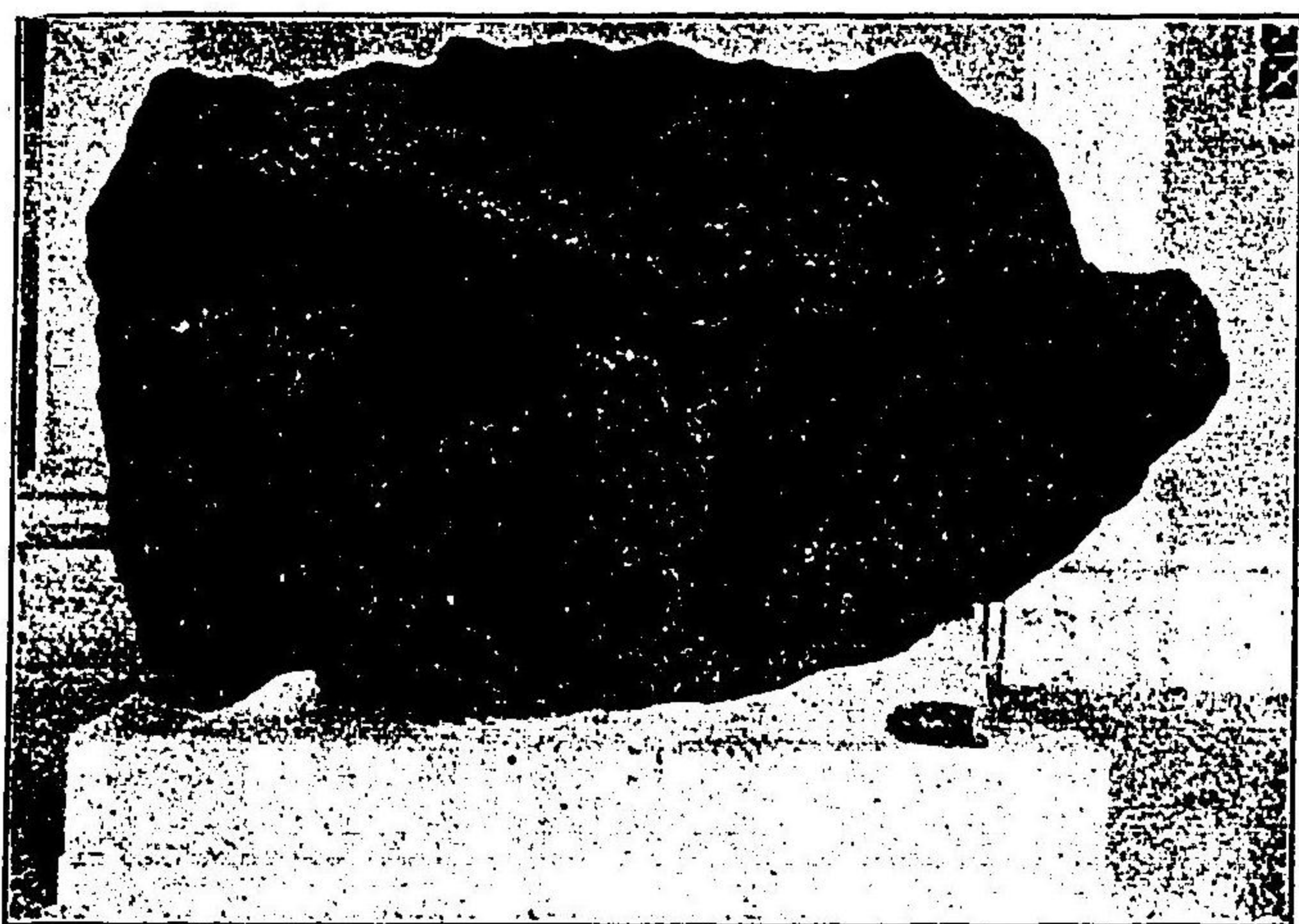
五百五十餘年の昔既に其記録を見る古代にありては太陽を初め天體を崇拜せるは萬國共通の事實なれば從て天より降りたる者を尊ぶは自然の理にして竟には自己の尊大を表はさんが爲に人類自ら天より降りたりと稱するに至りぬ去れば隕石も亦神として祭らるゝは怪むに足らざるべし紀元二千四百一年六月八日肥前國小城に降りたる者も長く社殿の内に祭られありしが今は英國なる當博物館に陳列され居るを見る

獨逸國エンシスハイム (Pusshheim, Elsass) の教會堂に奉納せられ其後同市の議事堂に移されたる隕石は降りたるを目撃され且つ現今まで保存されたる内にて最も古き者たり西曆千四百九十二年十一月十六日午前十一時過ぎ重さ約七十貫の石塊すさまじき音をなして高天より降り來り地下五尺の深さに埋まりたるを掘り出せる者なりと乎

月齡未だ六七に足らざるの日晴れ渡りたる夜半仰て天を望めば教知れぬ衆星蒼天に輝き居る中に往々にして星の飛ぶを見る此流星が地上に落

ち來れるもの即隕石にして其金屬性なるものは九割以上の鐵を含むを常とす第十八世紀以來世人の注目する處となりし彗星 (Miele's Comet) は西暦千八百二十六年ビーラ (Miele) 氏の觀測に依り其逆行の軌道を決定せられたるが西暦千八百三十二年及同四十五年には豫定の通り現れたりしも西暦千八百四十五年に見えたる折には彗星の一部分列して更に他の一小彗星と成れるのみならず次第に成長して尾を生じ次に二本となり三本に分かれ竟には本體よりも分體の方却て強大なる光を放つに到りしが西暦千八百五十二年に現れたる際には是等二個の彗星は百萬哩以上の距離を隔て次に豫定されたる西暦千八百六十六年並に千八百七十二年には竟に全く現はれざりしが同年十一月二十七日是等彗星の通過すべき軌道上を觀測せるに毎時間一千個以上の割合を以て數時間に涉り無數の流星を見たりに西暦千八百八十五年同月同日には六時間に涉り最も多き時には一時間に七萬五千個の流星を數ひたり其他各方面よりの研究に依り彗星は

圖 十 百 第



英國之流霧

鐵降天の半噸六十三最重

分散して一群の流星となり地球若し此流星群の中を通過すれば空氣の摩擦によりて熱を生じ發光するが故に星の飛ぶを見更に地面に近く來りたる流星は隕石と成る者なるを知る
 今當博物館に陳列されある者を見るに毎年平均數個の隕石發見さるゝ割合にて殊に明治元年の如きは九個の多數に達せり然るに陸は地球面上の四分の一に過ぎざるのみならず陸地の最大部分は人跡未到の内地にして隕石の有無だに知

るに由なく更に世人に認められたる隕石の一小部分のみが此博物館に陳列され居るに過ぎざるを思は、年々歳々全地球の面上に落下する隕石の数は數百個の多數に上るを推定するに難からず

實際我が太陽系の附近に散在する小流星は殆んど無數なるべく毎日一千五百萬個内外の流星地球の空氣内に突入して消滅するを思は、是等の流星の中を通過する有様は恰も吾人が吹雪の内を走るにも似たるなり而して地球面上に於ける一點に就て言へば恰も夜半に於て自轉及び公轉に基く進向の方向相一致し正午に於て相反對するが故に地球に對して日没より夜半に到る間に出會ふ流星の速度は夜半より日出に到る間に出會ふ流星の速度より小なるべく從て午前二三時頃には最も多く星の飛ぶを見るべく且つ午後よりも午前に隕石多き理なり而して是等の隕石は概ね小塊なるも稀に大なる者も亦なきに非ず現今最大の隕石はメキシコ(Mexico)政府の所有にして長さ十三尺幅六尺厚さ五尺重量一萬三千貫あり次はニ

ウヨルク(New-York)市なる博物館の所藏にかゝり長さ十一尺幅七尺五寸厚さ六尺ありグリーンランド(Greenland)にありて古くよりエスキモー人(Eskimos)の認むる處たりしが西曆一千八百九十四年ベアリー(Beary)北極探検に赴きたるの途次是を尋ねて持ち歸りたる者なり

十一 花之都

Mademoiselle.

Prenez garde aux amoureux !

En tout cas, si vous devenez mère,

Ne jetez pas votre enfant dans les W. C.

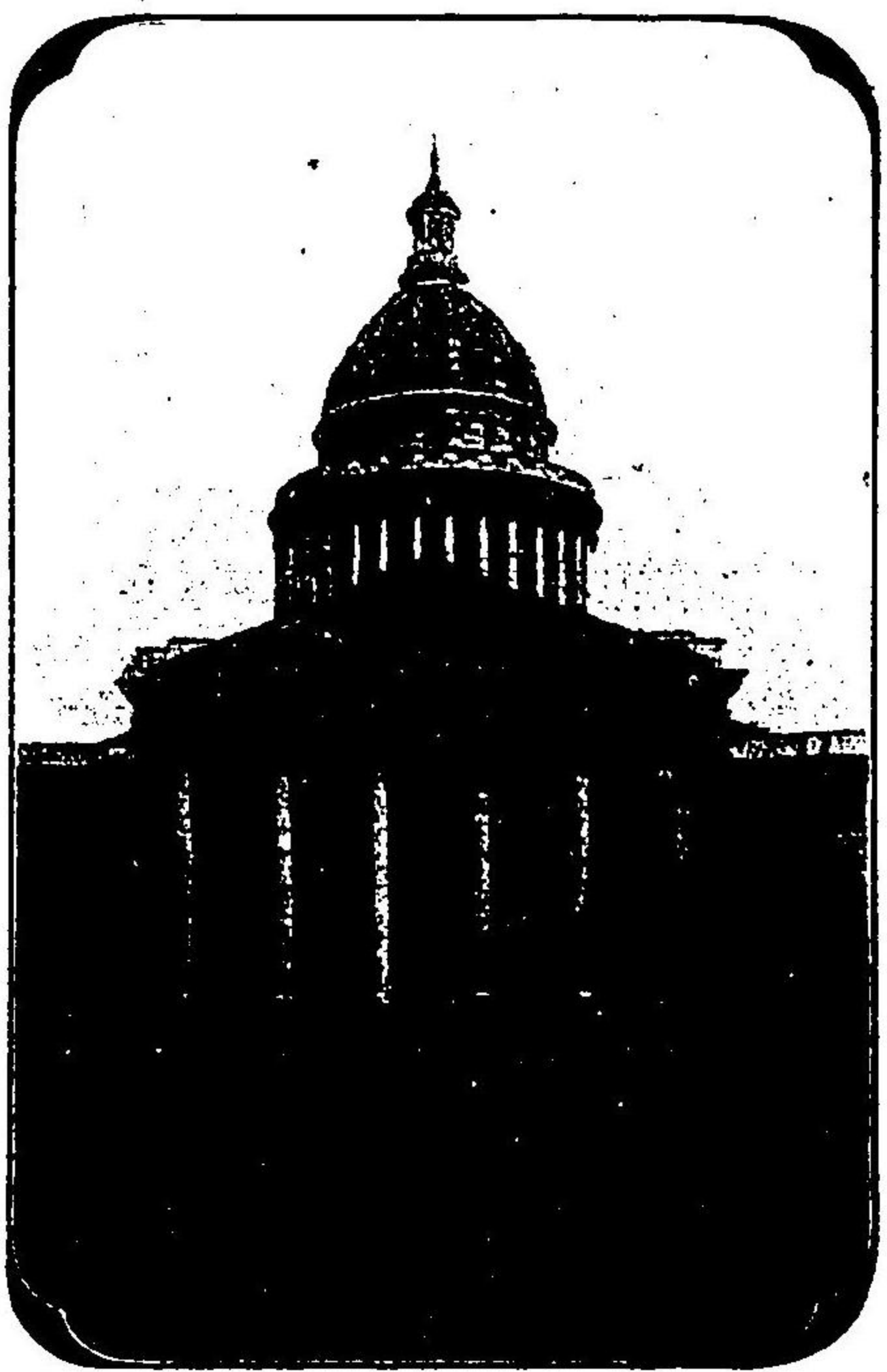
Portez-le à l'assistance publique.

Ni Frais, ni Formalités.

昨日と言ひ今日と暮してあすか川流れて早き年の暮にも旅路の身には越すに越されぬ關守なく物質的文明の有難さには日暮れて途遠しなど言ふ心配もなく夕方に英京を立ち出れば夢に英國海峡を渡り巴りに着くも朝食前去れば町家の軒毎に拂ひ出せる塵坩堝所の殘物は街道の兩側に點在し是を目的の屑拾は私に牛骨をねぶり魚の頭に舌鼓を打ちさながら餓餓道の如き有様は花の都てふ巴里市とも思はれずセーヌ河(Seine)を渡り過ぎ巴里大學を眺めつゝルクサンブルグ公園(Jardin de Luxembourg)に遊べば近くパンテオン(Panthéon)の堂宇も見ゆ

西歴千八百五十一年二月フーコー氏(Léon Foucault)が振子に依て地球の自轉を直接に證明する方法を工案し此處に其装置を作りて公衆に示し始めて俗人に地球の自轉を納得せしめたるの處たり蓋し晝夜の別ある所以は太陽が我地球の週圍を毎日一回づゝ巡歴するが爲にあらすして地球が自轉するに依るとは遠き昔より唱ひられたる學說なりしも是を直接に

第百一十圖



パネオンの堂宇

證明すべき簡單なる方法なかりしなり然るにフーコー氏は重錘を長き糸にて吊し單一振子となし垂直面内に振らしむる時は其振動の面は一定不變の位置を保つべき者なるに依り萬一斯る振子を北極に於て東西の方向に振らせなば地動説にして真ならんには地面は次第に回轉して六時間の後には東西の方向は振子の振動面と直角なるに到るべし勿論吾人觀測者も亦地面と共に回轉し居るが故に地面の回轉を認むること能はざるべきは當然ならんも兎に角地面と振動面と

の相對的位置が次第に變化するは明かなれば振子の振動する面が次第に東より南を経て西の方に動き一晝夜の後は全く一回轉する如く見ゆるなるべし而して若し此振子装置を北極以外の地に作らば其地の緯度の餘切(Coincidence)に逆比例して遅き回轉を成す筈なりとの結論に達し此装置を設計して實驗せしに果せるかな振子の振動面は時刻の進むに従ひ次第に回轉せしかば何人も此事實を説明する爲には地球の自轉を認めざるべからざるに到れり

巴里市はさすがに花の都として見るもの聞くもの珍らしからざるにあらざれど殊に京英或は伯林などと異りて最も目に附くは避妊装置の販賣店なり其數の多き事は東京市に於ける湯屋理髮店の數に匹敵するなるべく中には間口拾間にも餘まるべき堂々たる大店を張り數知れぬ各種の装置を袋にも入れず紙にも包まず店頭に露列し妙齡の處女是が賣子として控ひ居る様巴里ならでは到底夢にだにも見られぬなるべく佛國の人口が微

微として増加せざるも故ありと言ふべし

佛國婦人が妊娠を恐るゝ事恰も死を見るが如く所謂二兒主義を採りて萬一第三兒出生の際には知友是に弔詞を述ぶるを例とすと乎聞くなる最近の調査に依るに三十歳以上にして未婚の男女は約三百萬人に近きのみならず一子だも無き夫婦は百八十萬組に餘り僅に一兒を持つもの三百萬組なりと言へば是等の成人約一千萬人は自己の死亡後に人口の補充を成すに足るべき子孫を残さず二兒を有する夫婦約二百七十萬組は人口の増減に關係なく幸にして三兒以上を有する者三百九十萬組ありて多少の補充を成すと雖も既婚者總數二千二百六十萬人三十歳以上の未婚者三百萬人合計二千五百六十萬人の佛國人は一代の後には僅に二千四百七十八萬人の後繼者を残すのみなれば唯祖父母の死亡前に孫兒の出生あるに依り多少人口の増加あり且つ年々外國より入り來る多數の歸化人に依りて其元氣を保ち行くのみ去れば識者は大に國家の前途を憂ひて出産獎勵の法

圖二十百第



北極探險隊 後編

館ラパオの市里巴

規を必要とし某市の如きは千九百十一年度より市吏員にして一年六百圓以下の俸給を受くる者二兒以上を産めば一子に對し年俸の百分の五に相當する出産加俸を與ふるの規定を設けたり更に國家の爲に多數の子女を産むを主義とする子寶會 (La Ligue des familles nombreuses) の設立さるゝありて會長 (Capitaine Maï-
 ぎは自ら九人の子女を擧げ盛に各地に遊説し居ると乎聞く
 一月大寒の候は近きても秋の日の如く暖にして氣温は華氏五十度

圖三十百第



花之都

街市里巴の中水洪大

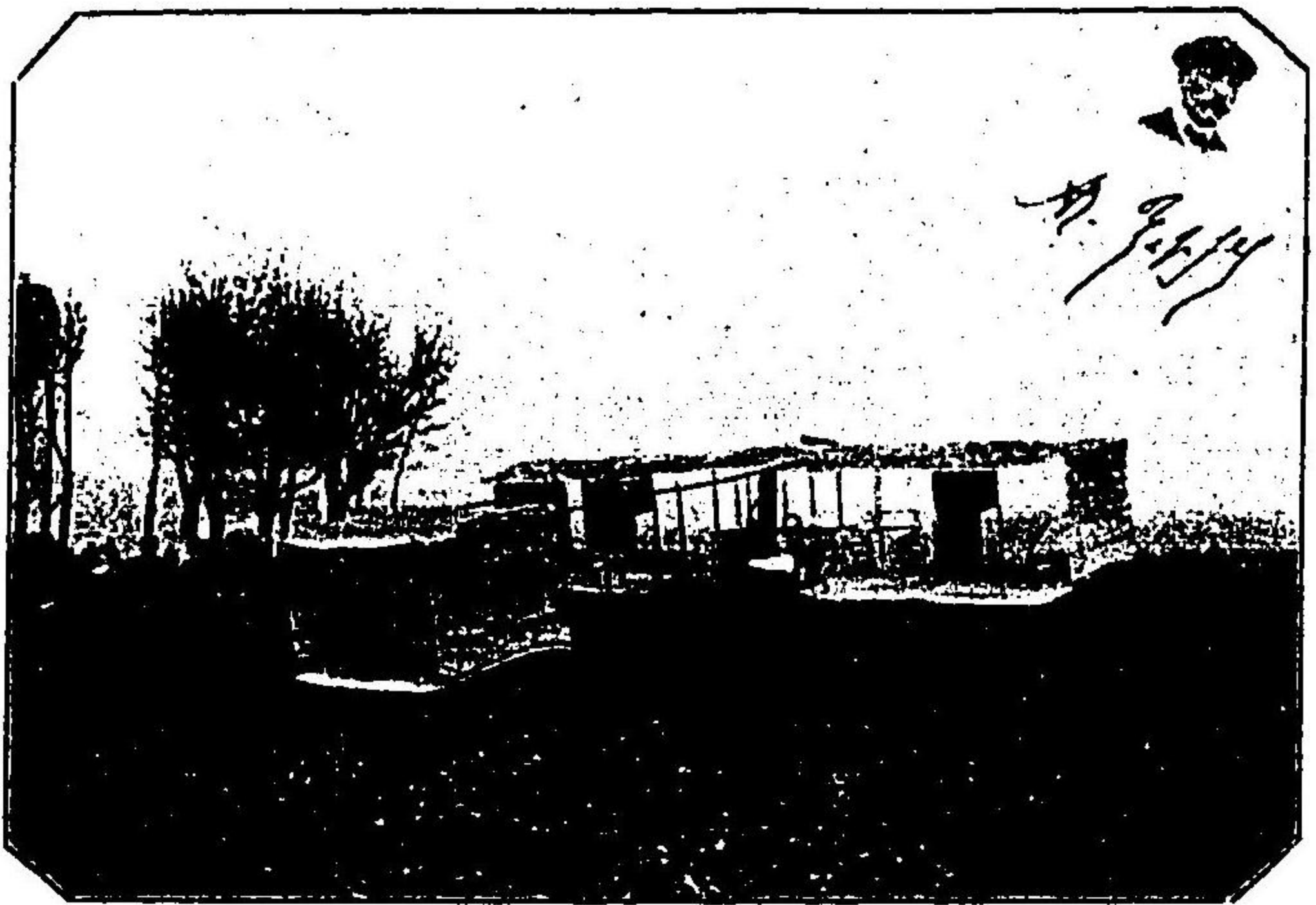
内外を保ち十二日漸く初雪を見たれど其後は概ね雨がちにてセーヌ河は日に日に水量を増すのみ月末には三十尺以上 (Pont Royal: 936 e. m.) に達したりと乎萬一隅田川が五間以上の増水ならんに東京市の混雜如何ならん流石は文明國の首府なれや毎日發表せらるゝ洪水豫報は少しも誤る事なく是に頼りて或は五寸若しくは一尺と必要に應じて堤防を増築し一般市内の景況には何等の異状なく三百年來未曾有の大洪水などとは夢にだにも思はれず唯大小の船舶が橋下を通過し得ざるが故に航行全く

絶え地下鐵道の線路は運河の如き景を呈し低地には排水口より河水逆流して臨時に噴水を生ずるなどの奇景あるのみ

蓋しセーヌ河の洪水に關する豫報は其調査の緻密なる驚くばかりにして其本流は云ふに及ばず幾多の支流の發源地附近に於ける降雨量を觀測し次に該地方の地盤を形成せる岩石並に土壤の雨水に對する浸透率を研究し更に日射時數を測定し是に依りて蒸發すべき水量を算定して各支川より流下すべき總量を概算し最後に各地に於て其増水の實測を成し是等各川の増水が幾時間後に巴里に着すべき乎を推定して翌日に於ける洪水の程度を豫報す斯の如く其準備全く理學的なるが故に其結果の確實なるは甚だ驚くべき者あり

八月下旬には巴里より約四十里を離れたるラインス(Reims)と云ふ田舎町にて一週間ばかり飛行機大競飛會開かれたりければ見物に行きぬ嘗て伯林にありし折にツェッペル(Zeppelin)が練兵場の天空を飛び回るを見たりけれ

圖 四 十 百 第



機 行 飛 葉 複 其 と 氏 ル ベ ッ チ

ば飛行の自在は元より豫期せし所なるも流石に競飛場に着き見れば拾有數個の飛行機が我劣らじと自由在空中を飛び居る様はさながら秋の野に蜻蛉の舞ふにも似て或は高く若しくは低く一回又一回競飛場を飛び巡りて日は西山に傾きても何時飛び止むべしとも見え去れば人間は飛行自在の生物なりてふ觀念は何時の間にか湧き居りて歸るを急ぐ膝栗毛のはかゆかざるを思ふては我身獨り下界に蹴落されたるの感なき能はず

花之部

そもく人類が飛行自在の空想を逞ふせるは遠く歴史以前に始まりたるなるべく今を去る千九百餘年前既に詩人オビッド (Ovide) が飛行機の事を記述せるを見る

デダルは羽をならべたり

小さき者を始とし

次より次に大きくし

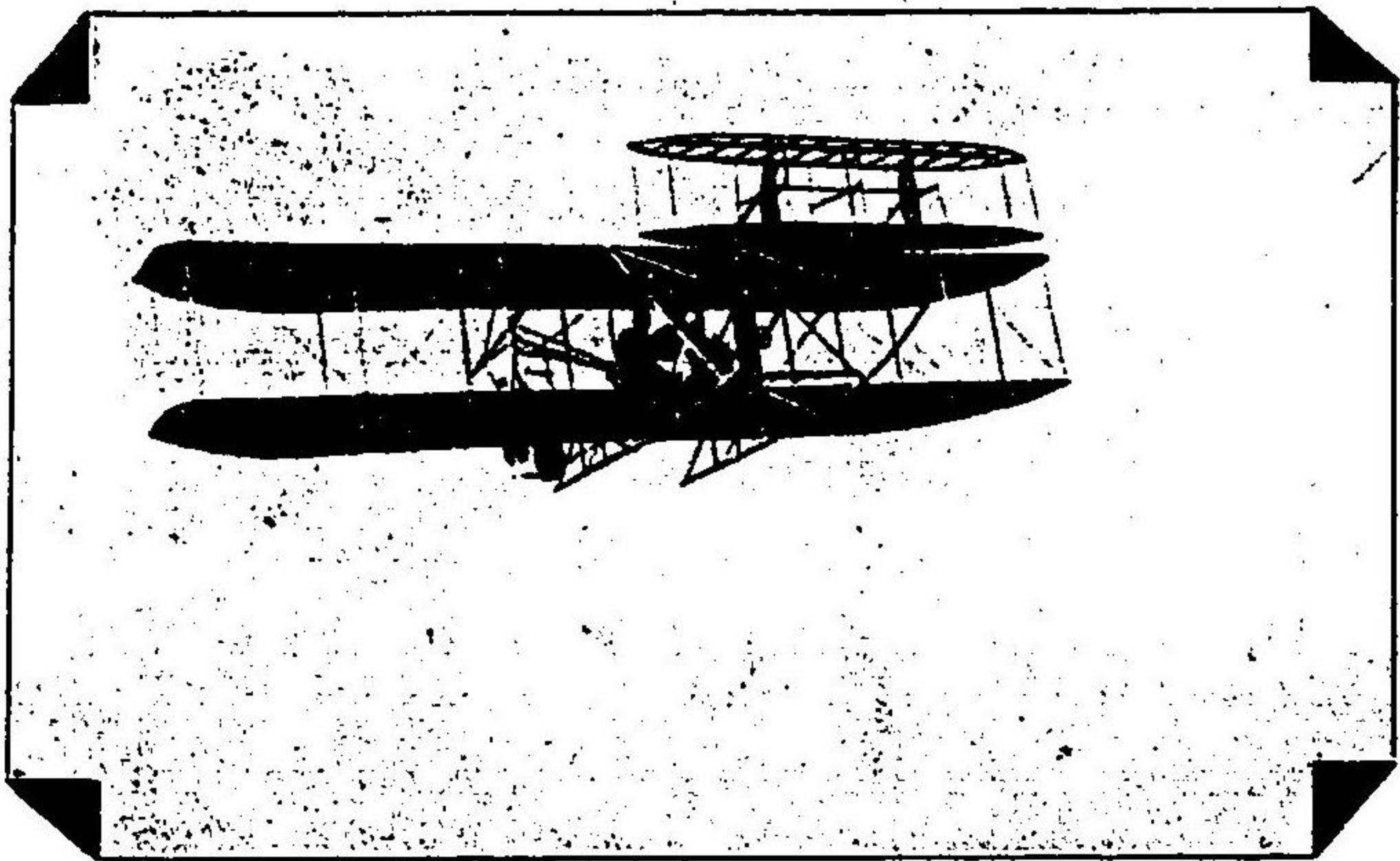
次第に高さを高くして

鳥の翼に似せんため

少しくたわみを付けながら

第十一世紀の中頃に到りては此小説をまねて塔上より飛行を試み兩脚を折りたる冒険家さへあり其後も空想家並に冒険家數多出けるも學術上より眞面目に研究せられたるは僅に第十九世紀の後半に始まれるにて佛

圖 五 十 百 第



機 行 飛 式、ル エ リ ー エ、ト イ ラ

國人ジュリアン (Julien) ペノー (Pénault) タン (Tatin) 等の諸氏は幾多の優良なる模形を完成せり去る程に獨逸人リ、エントール (Oto Lilienthal) は先づ高處より安全に且つ自分の希望する方向に飛び下るゝことを練習し竟には數メートルの逆風に向ひて百數十間の遠方にまで飛び行くだけ上達せしも西暦千八百九十六年八月九日練習中に變死するの不幸に遇へり翌年十月十四日アデル (Alier) は自己の考案に成れるアビオン (L'Avion) 三號に乗りて地上を滑走せる際僅に地面を離れたるは飛行機にて人類が飛び

そも人類が飛行自在の空想を逞ふせるは遠く歴史以前に始まりたるなるべく今を去る千九百餘年前既に詩人オビッド(Ovid)が飛行機の事を記述せるを見る

デダルは羽をならべたり

小さき者を始とし

次より次に大きくし

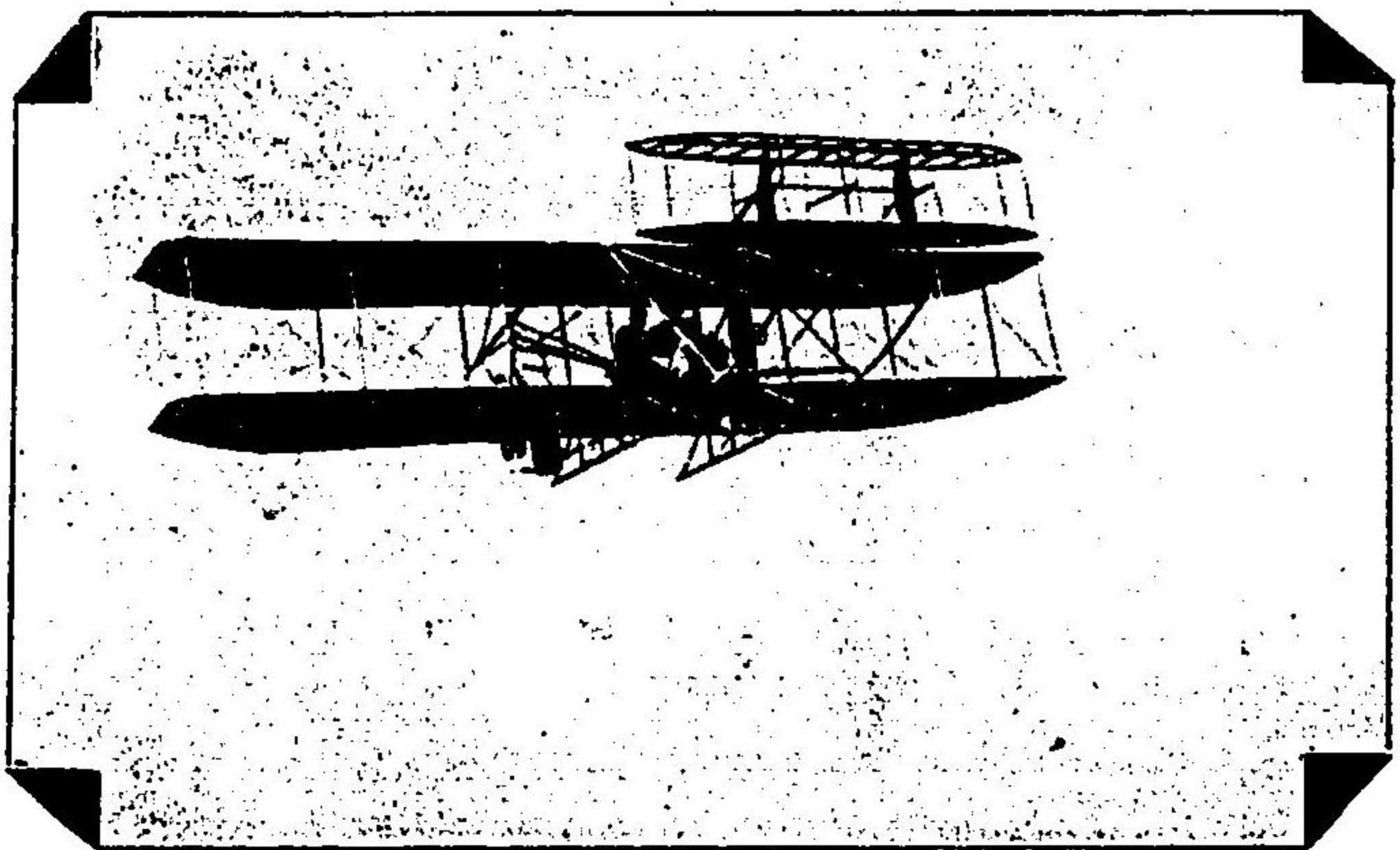
次第に高さを高くして

鳥の翼に似せんため

少しくたわみを付けながら

第十一世紀の中頃に到りては此小説をまねて塔上より飛行を試み兩脚を折りたる冒険家さへあり其後も空想家並に冒険家数多出けるも學術上より眞面目に研究せられたるは僅に第十九世紀の後半に始まれるにて佛

第百五十五圖

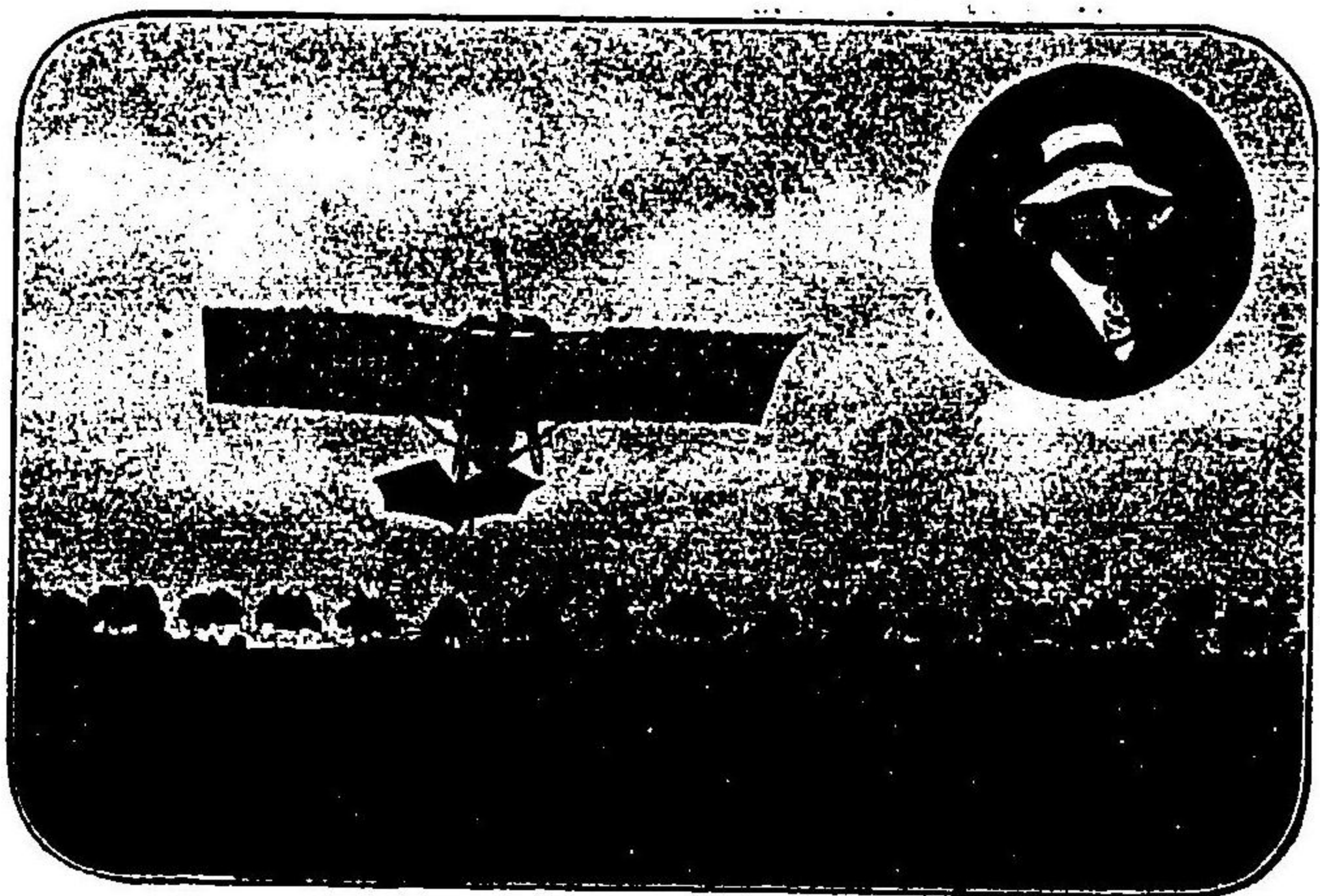


花之都

ライト兄弟の飛行機式

國人ジュリアン(Julien)ペノー(Penault)タン(Tatin)等の諸氏は幾多の優良なる模形を完成せり去る程に獨逸人リ、エントール(Otto Lilienthal)は先づ高處より安全に且つ自分の希望する方向に飛び下るゝことを練習し竟には數メートルの逆風に向ひて百數十間の遠方にまで飛び行くだけ上達せしも西曆千八百九十六年八月九日練習中に變死するの不幸に遇へり翌年十月十四日アデル(Adler)は自己の考案に成れるアビオン(L'Avion)三號に乗りて地上を滑走せる際僅に地面を離れたるは飛行機にて人類が飛び

第百六十圖



サントム、モネン氏とその飛行機

たるの始なり去りながら現時見る如
 き飛行機は第廿世紀に到りて初めて
 成功せるものにて西暦千九百一年以
 來ライト兄弟(Light Brothers)は米國にありて
 飛行を練習し千九百三年十二月には
 五十九秒間に八百メートルを飛び得
 たりと稱するも當時氏は是を公表せ
 ざりしが故に歴史家は是を採らず千
 九百五年の夏に到りボアザン(Voisin)
 は船に引かれてセーヌ河上五百メ
 ートルを飛び翌年サント・デュモン(San-
 tos Dumont)は單獨にて二十一秒餘に二
 百二十メートルを飛びて金千五百法

の懸賞金を得千九百七年十月にはフルマン(Farman) 五十二秒間に七百七
 十一メートルを飛び翌年一月には更に千八百メートルを飛びて出發點に
 戻り懸賞金五萬法を得たり然るに數年來米國にありて練習を積み居たる
 ライトは此年佛國に來り十二月十八日には一時五十四分間に百二十キロ
 メートル(約三十里)の大飛行を成し千九百九年七月にはブレリオ(Bleriot)が
 氏の第十一號にて英國海峡を飛び越えて以來各所に飛行機熱流行し各種
 の記録は一週間を待たずして破られ當巴里市に於ける飛行機學校(École
 Perieur d'aeronautique) の如きは開校後僅に一年有半なるに入學志望者非常
 に多くして既に分教場を設くるの必要起り或は飛行機にて遊獵に出掛く
 るあり若しくは洪水視察に飛び行くなど佛國に於ける飛行機の發達は全
 く豫想外にして近き將來に於ては必や通俗的交通機關たるなるべし

十五、歸朝

Dort wo Du nicht bist,
Dort ist das Glück.

住みなれし花の都の秋すぎて冬さり来れば紛々たる六花は電燈に輝きて流星の如く復た来るべくもあらぬ身のさすがに別れ惜みつゝ後を遙に願れば都の空も雲深く雨さへ今はふらんすを去りて乗り込む汽船は米國に其名も高きワシントン (George Washington) 二萬七千噸の巨船かやセルブルグ (Charburg) を船出して海峡諸島 (Channel Islands) も後になれば大西洋の荒浪に船足のみかは朝な夕な食も進まず甲板に上りても唯寒風のみ吹きすさび山なす怒濤は天を突き帆網の響は耳を破らんばかりなれば概ね室内

にこもり居て互に吐くは氣炎のみかは談り暮らし嘶し明す事既に一週間にして一天残らず晴れ渡れば正午の頃より幽に米大陸も見え初めて喜ぶものはコロンブス (Columbus) のみに限らず夕方には早くニウヨーク (New York) 港に着きしかど名にし負ふ入國入釜しき米國とてくだらぬ事に暇をつぶし愈旅宿に着くまでには英京より巴里に飛び行くに要するよりも長き時間を費せり

ニウヨーク市は新開國の都會として建築物の高大なるは言はずもがな奇抜なる者數知れず殊に生殖機病の恐るべきを市民に教示する設備の完成せるは一般米人の品性が劣等なるを表示する尺度ならん乎と思はれたり
ナイアガラ (Niagara) に到り見れば嚴冬の氣節とて瀧壺は氷結して觀覽者の交通を自由ならしめ空中高く飛散する水烟は附近の樹木にかかりて厚き氷層を成し恰も樹木のテンブラを見るが如く河を渡れば英領カナダ (Canada) ハミルトン市 (Hamilton) も早後にイリイ (La. Erie) の湖水を過ぎ行け

圖七十百第

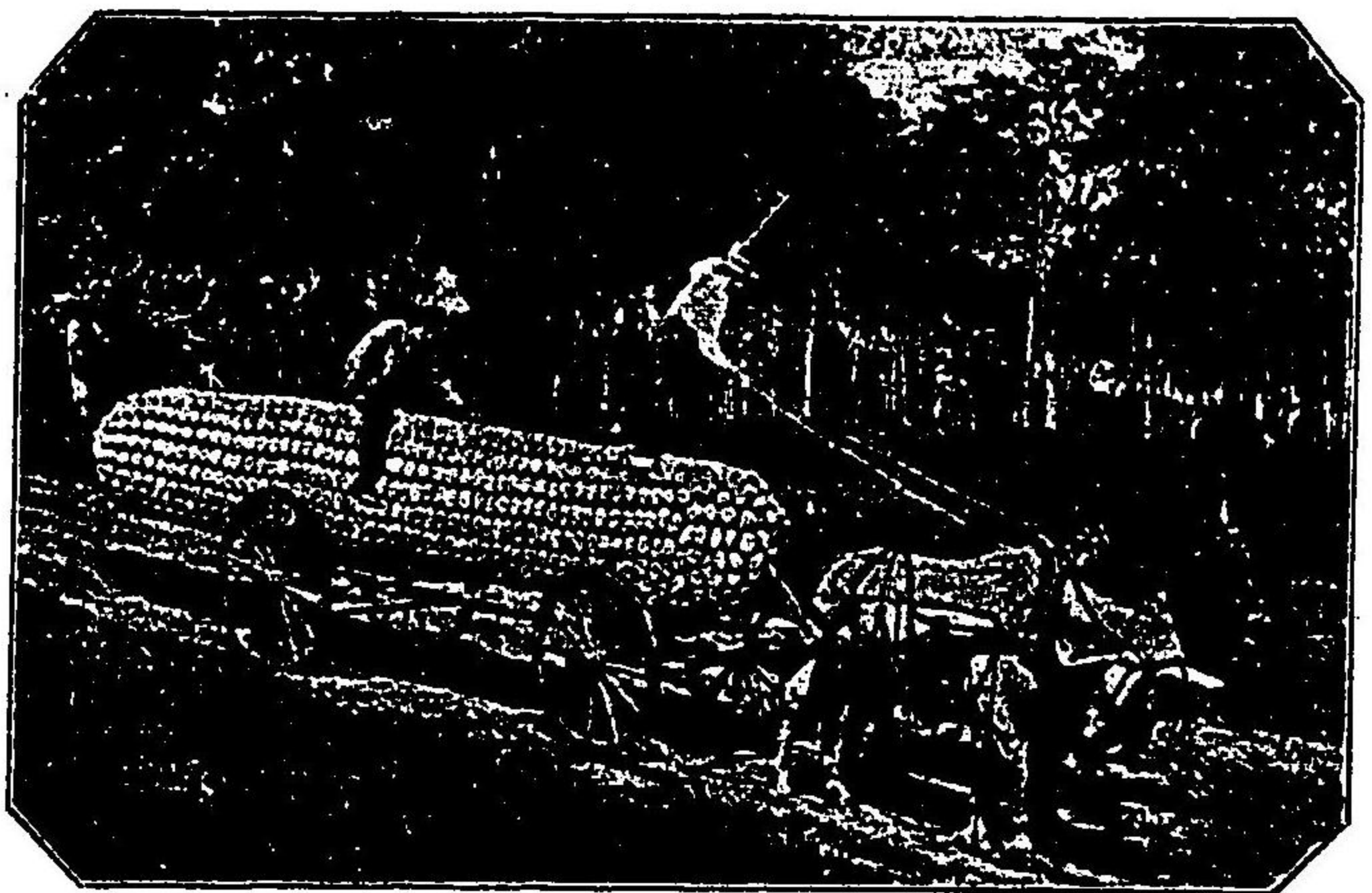


北極探検談 後編

冬の者はアイナが氷の
アガに第ラカ大
ラカ大に第ラカ大
小瀧に大に第ラカ大
山なく大に第ラカ大
の山なく大に第ラカ大
如く大に第ラカ大
見たり大に第ラカ大
ゆるる大に第ラカ大

二二八
ば復も米國にデトロイト(Detroit)是
より先にインディアナ Indiana) 何時
乎シカゴ(Chicago)にイリノイス Illi-
nois) キスコンシン (Wisconsin) にミン
ネソタ(Minnesota)が玉蜀黍の本
場として左も右も皆耕地五里に一軒
十里に一村夕陽に輝く硝子窓は彼
處に二つ此處に三つ夕の空の星の
影次第に増さり北ダコタ(N. Dakota)
モンタナ(Montana) イダホ(Idaho)に
またがれる岩山(Rocky M.)も夢と過
ぎ間も無く入るヤワシントン(Wash-
ington) 走れば早き急行車米大陸

圖八十百第



歸朝

米國之名物

を横断し二十九日の夜の九時シア-
トル(Seattle)港にぞ着きにける
プラットフォームに立ち騒ぐ赤帽も荷
馬車の人夫も或は旅宿の門番小間使
に到るまで凡て日本人にて日本町に
到り見れば蕎麥屋あり掛行燈あり三
味の音義太夫の唸聲扱ても日本式湯
屋の騒しさよ
滞在二日にして西曆千九百十年十
二月三十一日午前十時米大陸を去り
て太平洋に向ふ米國に在りてこそ今
は年末なれ我日本帝國に於ては正に
明治四十四年一月一日午前三時に當

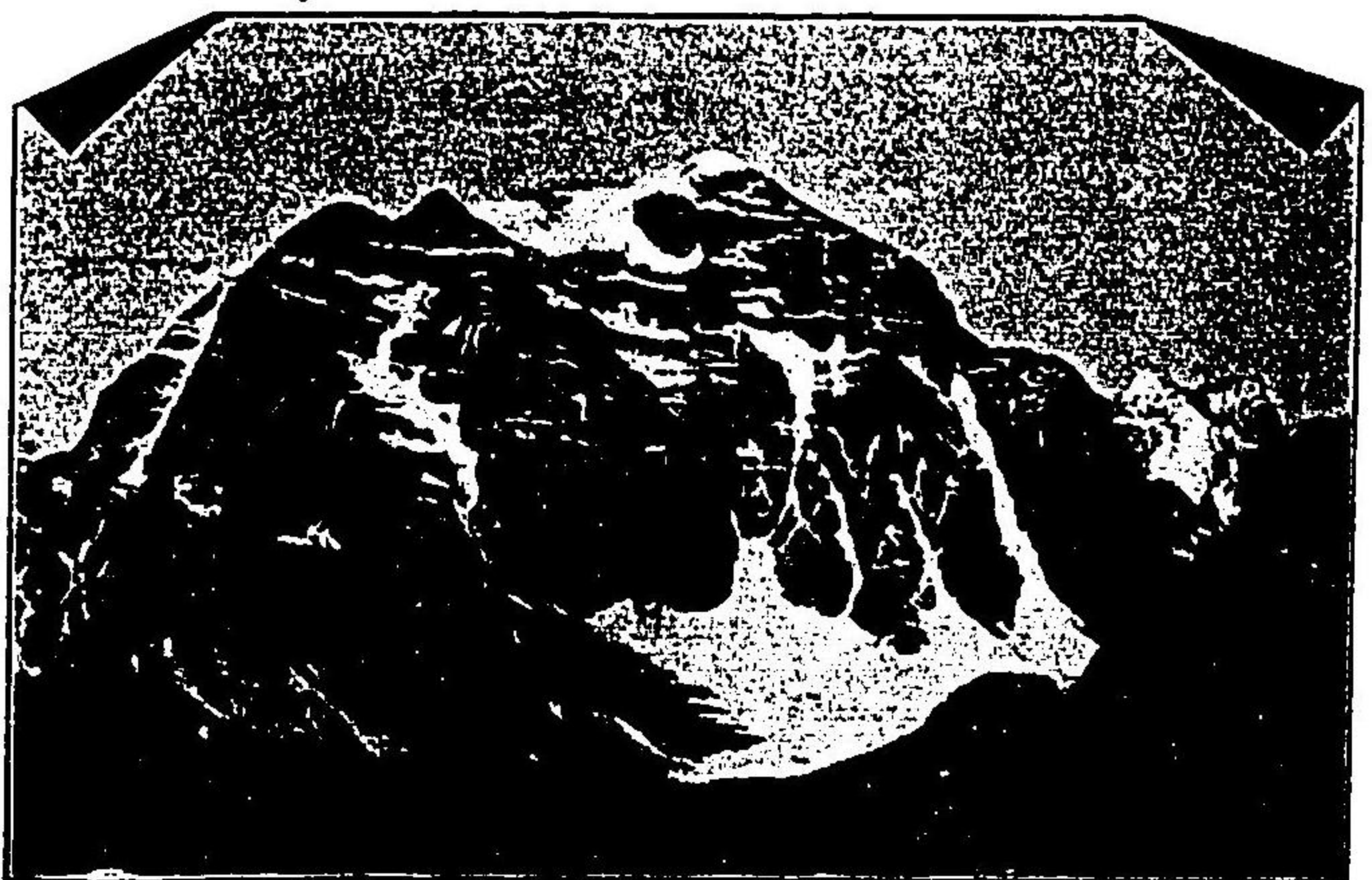
るなれば各地の神社は二年参りの善男善女にて大混雑の最中なるべく田舎の舊家にては老ひたるも若きも大木の切株を燃せる爐のまわりに集ひて面白き話に芽出度日の出を待ち居るなるべし

日も夕暮になりぬればバンクレー島 (Vancouver) も消え失せて白波だに見えず海に山に旅路の身には年越の蕎麥を喰ひはづしたること既に幾度ぞや早起き出で、甲板に昇り初日の出を拜めば眞に太平洋の名に負かず四海の波も静にて話し暮し笑ひ明す日も重なれば天候變り怒濤は甲板を洗ひて椅子は食堂に舞ひ卓子は回り出すなど狐狗狸様の遊びに似たり九日の午前には百八十度の子午線を通過したりければ今朝は九日なりし者を今よりは俄に十日と日も改まり一晝夜の内二日を過す珍らしさよ

今朝の内は明日は来にけり午前を

昨日とや云はん今日とや云はん

第九十圖



谷樂極と峰の塔るな中山キッロ

蓋し地球は毎日一回宛自轉するが故に地方時は經度十五度に付一時間宛の差あるに依り吾人若し毎日五度宛西航せば七十二日にして世界を一週し得る筈なるも斯る場合には一晝夜は二十四時間にあらずして二十四時二十分間となるべく此七十二日間には日出も日没も又正午も七十一回あるのみなり従て必一回は日出日没或は正午の無き日ある事となる此理に依りて一月九日は正午も無く日没も無く只日出ありしのみにて翌十日には日出なかりしなり是に反して吾

今朝

人若し東航せば正午より次の正午迄は二十四時間より短き故に前の如く七十二日間に世界を一週すれば日出も日没も正午も七十三回ありて或日には同一日に二回日の出沒を見正午も二回あるべし換言すれば同一の日が二日続く事となるなり去れば一日再び晨なり難しなど云ふ格言は井中の蛙のみに適用さるべき者なるを知るべく男子志を立て横濱を解纜して東航せんには一日の内に再び晨あるは理の當さに然るべき事なれば何すれぞ青年重ねて來らざる者と限らんや概嘆す三十にして居候などと駄句りつゝある老書生は試に此説を實驗せられなば幸なり

一葉萬里の船の旅浮き立つ波の夜となく晝となく風に吹かれ波にゆられ昨日と言ひ今日と暮らせどあすか川の流るゝ如くに船は進まず早十六日にもなりぬれば遙に見ゆる金華山沖を過ぐれば日も暮れて波風も靜に結ぶ夢さめて早明けぬれば富士の峰は旭日に輝き九十九里さへ近く見え野鳥崎を過ぎ行けば小さく見ゆる大島や次第に近づく城ヶ島浦賀海峡に

漕ぎ入りて間もなく觀音崎も猿島や冬をば知らぬ夏島も今は遙に杉田の沖本牧岬を回り來て横濱港に着きにけり

十六、非冒險論

原泉混混不舍晝夜盈科而後進放乎四海有本者固如此

夫れ山は塵泥より起りて天雲かゝる千丈の峰となり海は苔の露よりしたゝりて波濤をたゝむ萬水たり千里の道も是を一步より初め順を逐ふて進みなば何處に乎冒險なるものあらん此故を以て吾も人も冒險家たるを避けながら冒險家に倣りたる成功を仕遂ぐる事に心掛けざるべからず是を能くするの道ありや夫は先づ己を知り事業を知り易きに當り難きを避

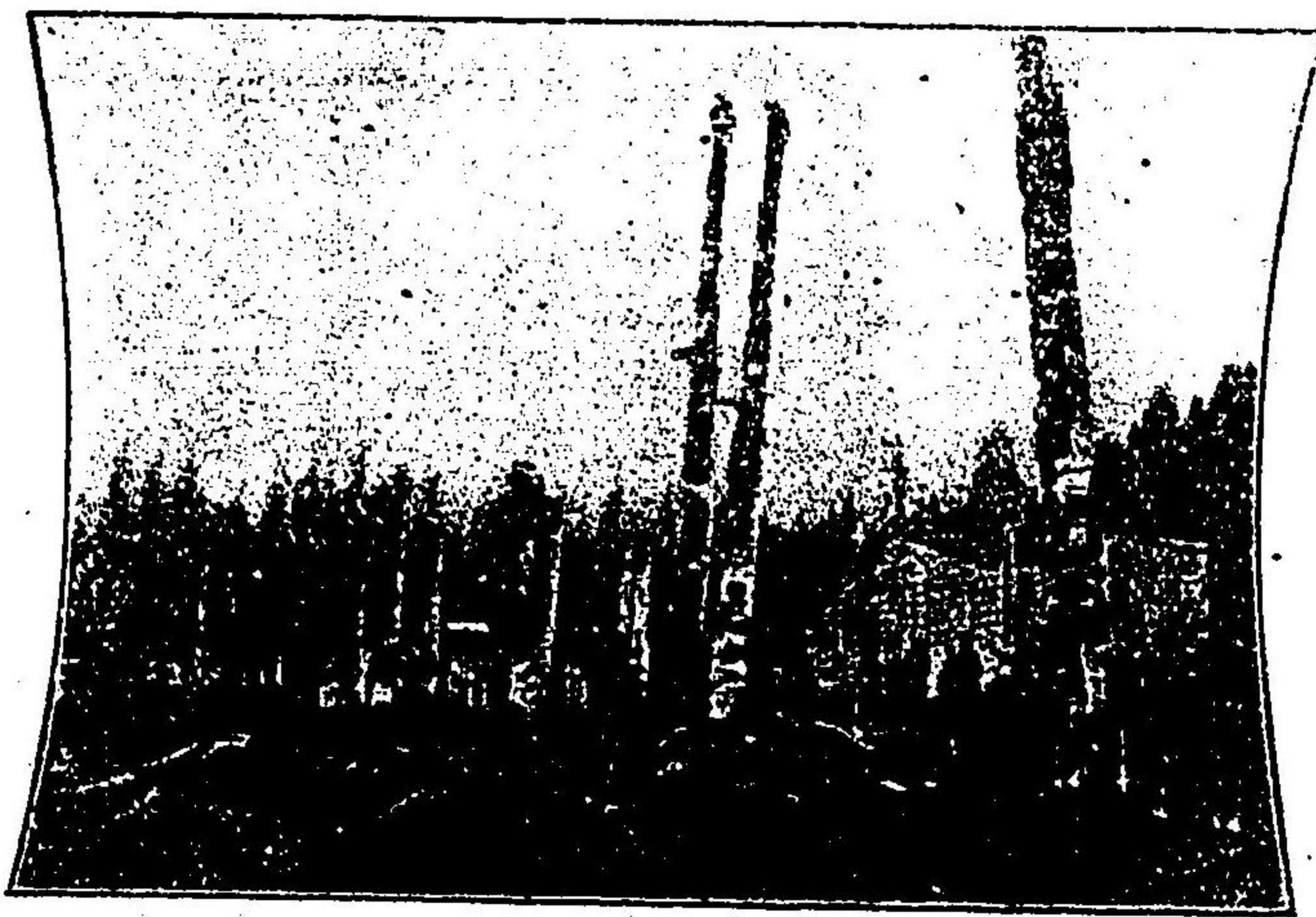
け次第に自己の實力を養成し己の長ずる所を以て是に適應する事業に當り休む暇なく突進して衆人の見て以て冒險なりと思ふ處の事業を成すにあり己を知るは難からん去りながら己を知らざるは事を企て、敗るゝの最も大なる原因なり事業を知るも亦易すきにあらず然れども事業を知らずして是に當らば敗れざることを稀なり他人の見て以て冒險なりと思ふ所の者を成さざれば大効果を納むる能はず己を知り事業を知り成功を期し得べき事業のみを選びて是に當らば一として失敗する事なけん萬事に失敗せざるは必竟するに成功の最も大なるものに非る乎

如何なる種類の事業と言へども絶體的に冒險なりと稱すべき者はあらず唯其事業の難易と是に當る人物の能力の比に依りて始めて冒險と常事とに分かるゝのみ甲の者は是を成さんとすれば非常なる冒險事業なりとも乙の者は是に當らば常事と化せざるにあらず例へば茲に河の幅六尺なるあり是を跳び越えんとするは果して冒險乎非乎五尺八寸以上は跳び得ざる

者はを試むるは非常なる大冒險なり溺れざることあらば萬一の幸のみ去りながら優に七尺八尺を跳び得るの人にして此河を越えんとするは少しも冒險にあらず元より普通の事にて大道を歩むと何等の差異なからん輪の水中に潜るは常の事のみ鳥是を真似るは冒險なり溺れざらんとするも得べからず

世人の見て以て冒險なりと思ふ處の者も其事に當れる人より是を見て冒險の事業に非るが故に是に成功す例へばコロンブス Columbus が新大陸を發見せんと企て、太西洋に航進せるは普通の人より是を見れば非常なる冒險に似たり此故に氏が其當時航海に要する資金を得るに甚だ難かりしなり然れどもコロンブス自身より是を見なば少しも冒險の事業にあらず少くとも氏は是を冒險なる事業とは思はざりしなり蓋し氏は固く地球の球状なるを信じ更に航海に就ては年來の經驗あるのみならず潮流ならびに風の方向と漂着物とを比較觀察して太西洋の對岸には歐洲人と全く

第百二十圖



アメリカ土人の奇習

風俗を異にしたる人種の生活し居る者なりと信すべき理由を有したればなり氏が大陸發見の爲に解纜せるは恰も秋の日にあたり野邊に遊べるの歸途栗の正に熟せるを見たるの兒童が夜半に大風の吹けるを知りて翌朝未明に床を抜け出で落ちたる栗を拾はんが爲に栗樹の下に走り行けると何等の差異あるなし元より當さに然るべきのことにして冒險と言ふべからず去りながら未だ栗の熟すべき季節をだに辨せず夜中は睡眠をむさぼりて風

の吹けるや否やをも知らざるに徒らに栗の樹の下に赴く者あらんには其愚や笑ふべきの至りにして勞して功なき事知るべきのみ

然りと雖も世人の見て以て常事と思ふ事のみに従事し居りなば何に依りて乎普通の人々と異なるを得べき萬事世間の人々の如く成せとは世人に及ばざる愚者に對して訓誡せるの教にして衆人に優らん事を望むもの、守るべき誠にあらず衆に秀でたる人物たらんと欲せば常に衆を抜くの事を成さんと心掛け居らざるべからず去りながら衆に優れるの能力なくして猥に衆人の成し得ざる事業に着手しなば其敗るべき事日を見るよりも明なれば初より斯る事業には着手せざるにしかずかるが故に先づ衆に優れるの能力を養ふを第一の急務とす而して自己の能力が果して衆に優れるや否やを知らんと欲せば常に身と難事に處して是を試みざるべからず平常己を難きに置きて是を試むれば一は以て自己の力量を熟知し得べきのみならず其力量も亦日に月に進み行くこと言ふを待たず斯くの如く

にして小より大に到り易より難に及ぼし弱を先にし強を後にせば行路坦坦として平道を歩むが如く少しも冒険の恐なくして他人の見て以て甚難しと思ふ事にも功果を擧ぐるを得べし要するに冒険は勉めて是を避くべきも他人の未だ考及ばざる處の者を成さん事に意を留むべきなり

蓋し事業を計るの尺度は是を成すに要する勢力の多少にあらずして是を成したる後に來るべき功果の大小にあるを忘るべきにあらず從て寢食を廢して日夜勤勉竟に一事に成功せるものあらば其熱心や賞するに足る者あるは勿論なるも萬一寢るべきに寢ね喰ふべき時に喰ひて而かも同じく成功せるの士あらば是こそ眞に上の上なる者に非る乎苦學者は賞するに足る而も樂學者に及ばざるや遠し世人往々にして勞苦の大なりしを説きて得意然たる者あるは誤れるの甚しき者と云ふべきなり部下の全滅を敢てして一城を攻取したる者あらば其勇や大にして其勞や多し然りと雖も若し一兵をだに損せずして此城を降したるの名將軍あらば後者に賞を

重くするは當に然るべきの理に非る乎蓋し勞を賞するにあらずして功を賞するものなればなり故に曰く勞多きの方法は常に是を避けて功大なるの道を選ばざるべからず而して勞を避くるの道は脈を逐ふて進むにあり功果を大ならしむるは衆人の考ひ未だ及ばざるの點に着目するにあり

自己を知らず事業を知らずして猥に難事に着手し失敗する輩は其愚や笑ふべきも情に於て憐むべきもの無きにしもあらず唯夫れ自ら成功の見込なきを悟りながら徒に虚名を賣らんが爲に衆を欺きて事を企つるの輩は其罪や惡むべく識者の將に鼓を鳴らして責むべき者なりとす假に想へ朝鮮の山中に人あり檄を各道に飛ばして曰く漢亡んで子房ふるひ秦帝にして魯連恥ぢたり大韓國民の内に豈夫れ一人の子房無き乎夫の東夷何者ぞ列強に喰はすに利を以てし東洋の平和を名として猥に他國を併合す其罪許すべからず我が韓國小なりと雖も蒼生百萬豈國を憂ふるの志士皆無ならん哉決死の輩必や萬を以て對ふべし今若し沿海の各郷有する所の大

船を募らば千艘を集むること難きにあらず勇士數萬是に分乘し艤相含みて東海を渡り死を決して彼を攻めなば旬日を待たずして和奴我が意に従はん云々と斯の如くにして義軍を募集する者おらば如何彼誠に天下の大勢を知らず千艘の帆船と數萬の義勇兵とを以て日本帝國を征討し得る者と思ふ者ならば其勇を賞するに先だちて其愚を憐まざるべからず去りながら彼萬一初より其成功を期するにあらずして唯是に依て虚名を博し若しくは衣食の資を得んと企つる者たらんには其罪輕しとなさず軍事に於ては世界の一等國たる我日本帝國には斯の如きの愚説に惑はざる者なきは云ふに及ばざるも軍事以外の専門事項に關しては井中の蛙然たる者少きにあらず

成敗は問ふ處にあらず一死以て事に當らん而已とは日本人の常套語なり然れども是誤れるの甚しき者なり死すとも中廢せざるの決心を以て事業に着手するは大に良し去りながら初より成算なくして單に一身を捨つ

れば失敗するとも其責任を免れ得べしと思ふは誤にして斯の如きの考を以て事を企つる者あらば死刑を豫想して犯罪に着手するの徒と區別なきに到らん只に死を恐れざるが故に其勇壯を賞すべき者ならば身を華嚴龍に投ずる者若くは鐵道を枕と成すの徒を第一位に賞賛せざるべからず死を恐るゝは勇者の恥づべき所なると同時に生を輕んずるは愚者の擧たるを忘るべからず俗歌に曰はずや

思ひ出す様じやはれ様がうすい

思ひださず忘れず

と日夜忘るゝ折なからんには思ひ出す事無きの理なり従て度々思ひ出すは屢々忘れ居るの證なるが如く事に臨みて初めて死を決するは平生生死の外に超然たること能はざるが故のみ生死を意に介せざる者は死を決するの必要なきなり事に當るに死を決するは勇の小なる者にて眞の大勇は事に臨むに生死を念頭に置かず

故に曰く必先づ成算ありて然る後に事を企つべく自ら冒險なりと信ずる事業に着手する勿れ而して常に他人是を以て冒險なりと信する如き難事業に成功し能ふべき力量を養ふ事に勉むべし

事實は平凡なり然れども平凡なる事實は、
奇抜なる空想より常に多くの眞理を含む

著者識

北極探検談 後編終

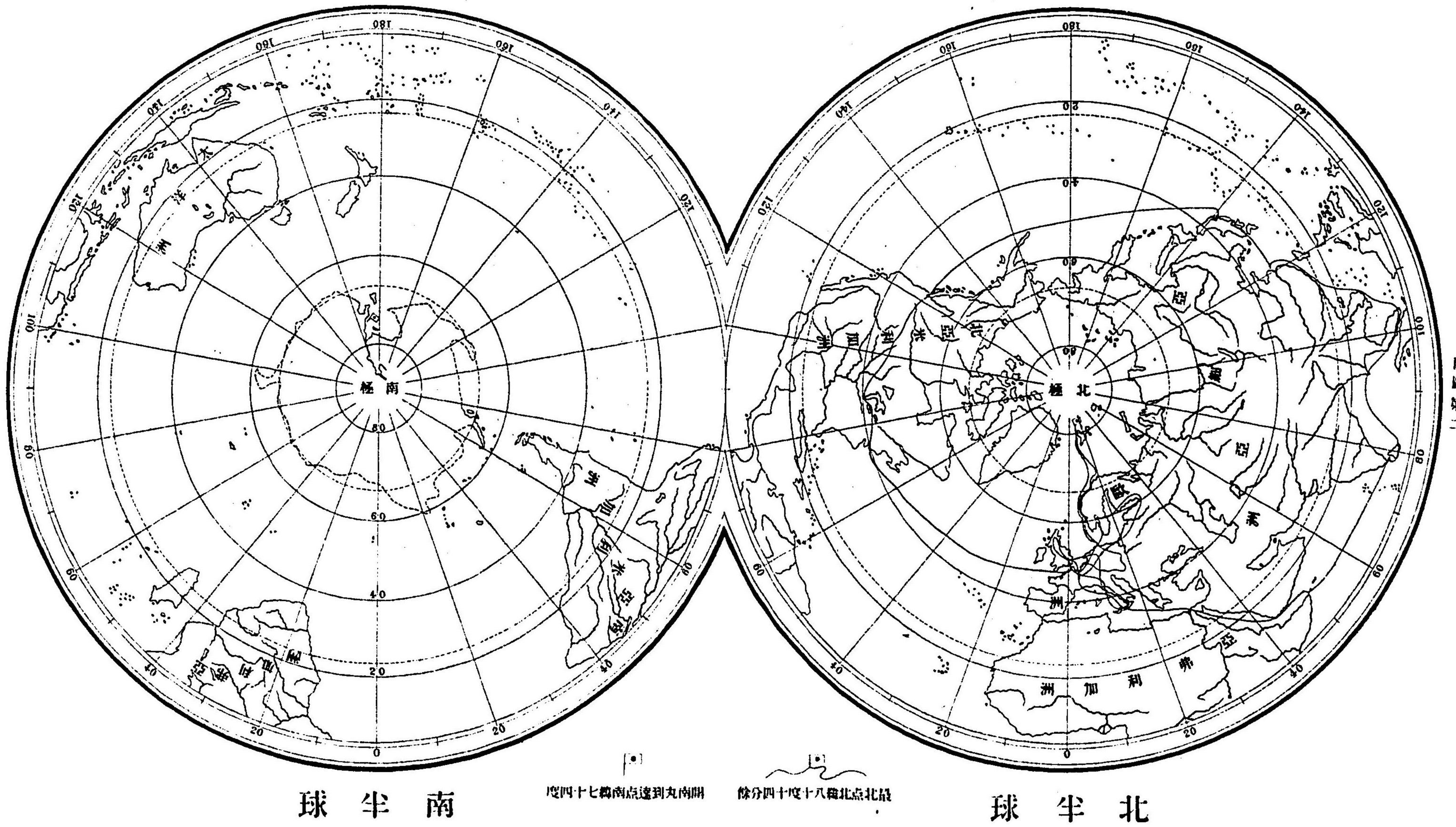
尖峰島

航路



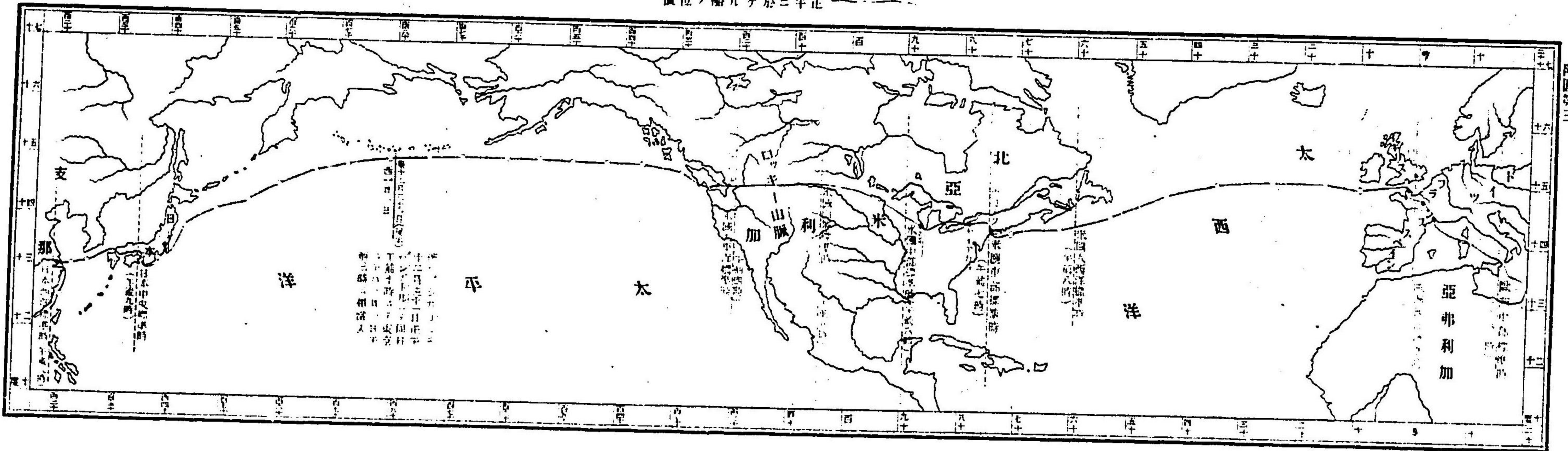
附圖

圖 路 航 球 半 南 北 南



歸朝航路

正午於船位ノ價



明治四十五年五月廿一日發行



(北極探後編)

(不許複製)

定價金壹圓

著者

日下部四郎太

發行所

東京市日本橋區本町三丁目八番地
大橋新太郎

印刷者

東京市小石川區久堅町百〇八番地
水谷景長

印刷所

東京市小石川區久堅町百〇八番地
博文館印刷所

發行所

東京市日本橋區
本町三丁目

博文館

振替貯金口座東京二四〇番
販賣部電話本局二六二〇番

東北帝國大學醫科
大學教授理學博士 日下部四郎太君著

●發兌元 博文館

北極探檢談

(前編)

洋裝菊判上製紙數二百餘頁
地圖彩色版寫真版共八葉
正金九拾錢
送價料

全國民の後援を受け、多大の希望を囑せられたる開南九が、南緯七十四度に於て、氷雪に逢ひ、恨を呑んで、空しく歸航せるに際し、吾人は單身白人の群に投じて、北極探檢に赴き、北緯八十八度以上の極地を探檢して歸朝せる、日下部博士を想起せずんばある可からざる也。本編は同博士が、横濱解纜より、四十二年八月、北緯七十四度北氷洋上の大氷山に會する迄の旅行記にして、伊國の大震災を始め、歐洲十三ヶ國の風俗、南は赤道直下より、北は北氷洋に到る迄の山水、凡そ百餘の挿圖と鮮明なる地圖とに依つて説明せらる。博士はこれ理學界新進の帝大教授なり、其觀察、情趣に於て、一般漫遊者と同一に論ず可けんや。其記する所、學術を基礎として、而も趣味の津々として盡きざる、蓋し此種の著書中、未曾有の快著なりとす。

梅邨 瓜生 寅君譯

●發兌元 博文館

マルコポロ紀行

菊判總布上製紙數五百六十餘頁
口繪コロタイプ一枚地圖彩色刷倍列四枚
正金壹圓五拾錢
小包料拾錢

著者は伊太利ヴェニスの人、弱冠父に従ひ波斯を跋渉し葱嶺を越え支那に入り、十七年の間、元の忽必烈帝に事へて諸國を歴遊し、後に歸りて海軍に將たり。戰敗れて捕虜となり、在獄の間、同囚の者に口述して、歴遊中の見聞事實を筆記せしめし者、即ち此書なり。此書世に出で、人皆之を珍とし、歐洲諸國競つて國語に譯し、轉傳謄寫し、遂に佛伊英露獨蘭羅匈等の語を以て世に傳はる者、實に七八十種、其出版公行せし者も亦三十種に下らず。而して吾邦に於ては、未だ曾て之を見ず、文學界の一缺陷と云はざるべからず。梅邨先生此に慨あり、自ら奮つて之を譯し、兼ねて漢洋古今の歴史地理の書數十部を涉獵して、参考に資し、以て其誤正し、威を補ひ、註釋に加へて讀者に便せられたり、諸君幸に一本を購うて机上の珍とせよ。

類書談奇探友の机淨窓閑

五大洲探險家 中村直吉君 共編
冒險世界主筆 押川春浪君

●五大洲探險記

四六判洋裝各册三百頁寫眞版挿入
正價各四拾五錢郵稅各六錢
第壹卷 ●亞細亞大陸橫行
第貳卷 ●南洋印度奇觀
第參卷 ●鐵脚縱橫
第四卷 ●亞弗利加一周
以下逐次刊行

本書は歐米の大旅行家をして顔色なからしめたる快男子中村直吉君の探險記なり、收むる處前人未發の大發見あり、鬼神も驚く大冒險あり、秘密國の真相あり、船中の奇遇あり、別離の悲嘆あり、珍談奇聞百出して、殆んど應接に遑あらずらしむ、眞に是れ空前の大快著にして、春宵秋夜唯一の同伴たり

(行發館文博)

江見水蔭君著 (菊半載四二八頁)

●小探險女王

正價金四拾五錢 郵稅四錢

次 目
○海底女王 ○怪船美人 ○瀧の化身
○天幕生活 ○窟の妖女 ○惡魔の家
○島の姉妹 ○秘密の匣 ○生蕃復讐
○怪鳥の娘 ○漂流少女 ○無名王國
○海獸獵者 ○戰の飛沫 ○鱈魚退治
○捕鯨探險 ○富士相撲

江見水蔭君著 (菊半載三九〇頁)

●少年探險隊

正價金卅八錢 郵稅六錢

次 目
▲殺人島 ▲七銅鑛 ▲秘密國 ▲類人猿
▲怪人種 ▲大寶庫 ▲島の寶 ▲東光丸
▲風行事 ▲隱れ島 ▲七ツ釜 ▲老船長
▲火賊來 ▲熊退治 ▲海賊來 ▲陸平行
▲空中船 ▲穗坂行 ▲秘密隊

類書談奇探友の机淨窓閑

押川春浪君編(四六判寫眞版八葉入)

●中村春吉自轉車世界無錢旅行

正價金參拾八錢 郵稅六錢

書中險山あり、漑流あり、妖女あり、俠士あり、忽ちにして蠻境の悽月、忽ちにして大汽船甲板の競技、千變萬化の蠻勇旅行は、何人も痛快を叫ばず居られまい。

松川木公君著(菊判布表紙寫眞版八葉入)

●樺太探險記

正價金參拾八錢 郵稅六錢

内 容
▲島の鉅屑 ▲波高く夜は暗し ▲海馬
▲島の四時間 ▲上陸難 ▲莖柱 ▲臘
▲密獵船 ▲十三人の士雜居す ▲ギ
▲リヤーク人の家 ▲千兩酌婦のお富
▲南の秘密北の秘密 ▲鯨魚の壯觀
外痛快記事數十章

(行發館文博)

河岡潮風君著 小杉未醒君譯

●冒險五洲怪奇譚

正價金五拾錢 郵稅八錢

内 容
▲鐵腕の船長 ▲南國橫行記 ▲海賊帆赤船 ▲水中別天地 ▲黒手脅迫狀 ▲シラムの象蹄 ▲痛快男子 ▲比律賓の少年 ▲保羅海上暴行 ▲ハワ
▲イ蘭獲 ▲小便の十六日 ▲響尾蛇の冒險 ▲大河突破四青年 ▲へべれけ閣下 ▲密貿易一行 ▲沈み行く船の悲劇 ▲帝國水兵約退治

岡 雷平君著(全一册菊半載三一六頁)

●南洋珊瑚島探險記

正價金參拾錢 郵稅四錢

神戶又新日報評 やまと新聞記者岡雷平氏の實験談にして、實に一昨年十二月五日、雲鷹丸(四百四十八噸)に乗じて備に辛酸を嘗め盡して探り且つ試みる冒險物語にして、尋常一般の探險小説と同一視すべからざる珍書なり

怒濤庵 江見水蔭君著

●發兌元 博文館●

探檢地中の秘密

菊判 三百廿頁
繪寫眞版數頁入
正金五拾八錢
郵稅金八錢

蠻勇の力を以て、地中の秘密を發くべく、深く貝層の間に掘入りたる著者の探檢實記なり。其發掘の壯烈なる、其遺物の怪奇なる、文章自在に之を表はし、三千年前の日本先住民が生活の狀態は、悉く紙面に活躍せり。然れば、文學上の產物としても、科學的の著述としても、優に當代の奇書たるを失はず。考古家の參考書たり、旅行家の案内記たる以外に、家庭の好讀物とし之を江湖に薦む。

高橋光威君著

●ロビンソン 絶島漂流記

全一冊洋裝菊判
紙數四百九十頁
正價金四十錢
郵稅金八錢

押川春浪君著

●發兌元 博文館●

險奇小説 破天荒

四紙正價
六數判
洋裝美本
金五拾五錢
郵稅金六錢

本書には左の數篇を收む
鐵車王國。頑強壯漢。強者と犠牲。猛火燈臺。鐵血紅涙。腕環の行衛。
是れ皆卷を措く能はざる著者最近の傑作なり

江見水蔭君著

冒險小説 女水夫

四紙正價
六數判
並製美本
金五拾五錢
郵稅金六錢

妙齡の少女、水夫に假裝し、探檢船に乗じて北極の海に遠航し、氷山の下に父の屍骸を發見し、風雪の間に母の仇敵を討取る。斯くの如き大舞臺に斯くの如き大活劇を演ず。壯快眞に無比なり。此女主人公の他に、最も活躍せるは、江戸系の海軍大佐なり。酒好きの理學博士なり。熱誠に富む貴公子なり。同情に深き令嬢なり。偽探檢家出で、田舎力士出で、老漁夫、奸才子、好爺、悪婆、其他現代の名士出で、又少年の八犬士出で滑稽極まる運動記者出で、人氣を集中する事非常なり。眞に一談肉躍り血湧くの感あり。

海軍少尉 阿武天風君著

●博文館發行●

海上怒濤譚

全一册洋裝四六判美本
紙數四百九十餘頁
正金五拾五錢
郵稅八錢

怒濤譚出づ！海國の青年子弟は直ちに取つて讀むべし！著者は元是れ海に依つて世生れしもの碧波萬里の渺茫と、怒濤澎湃の莊嚴より、偉大なる感化を享け、著者獨特の筆致が、常に江湖の間に、嘆賞と讚美の聲に、迎へられつゝあるは、既に世人の知悉するところ、其著の内容が如何に男性的色彩に富み、如何に痛快の事實に充たさるゝかは、敢て想像するに難からずといふべし。讀め！讀め！自ら男性活躍の壇場たる海に泳がんとするもの、若くは其子弟を海に送らんとするもの、必ずや本書一部を座右に備へて、愉快なる海上生活の眞趣に觸れざるべからず！

同 君 著

●海上生活譚

洋裝四六判美本
紙數五百二十六頁

正金五拾五錢
郵稅八錢

334
185

